

# 石 狩 市 新 農 業 振 興 計 画

(平成15年度～平成24年度)

石 狩 市

## [ はじめに ]

石狩市には、「砂と闘う」という記録映画がありますが、昭和24年の樽川地区の造田事業の様子を記録したもので、昭和20年代には大規模な造田事業が各地域で行われ、畑や牧草地の大半は水田に変わり昭和38年の水稲作付面積は3,383ヘクタール、出荷量12万俵を超え、道央の穀倉地帯となった輝かしい歴史があります。

しかし、昭和40年代後半に入ると、生産調整や大規模住宅団地の造成、石狩湾新港の建設と石狩市の産業構造は大きく変わり、今では水稲作付面積が700ヘクタール余り、農作物の作付面積も約2,600ヘクタールと減少の一途をたどっております。

また、農業地域も生振地区や石狩川右岸地区へと移り、農家戸数の減少、高齢化、農産物価格の低迷など多くの課題を抱えております。

一方、平成13年のBSE(牛海綿状脳症)問題に端を発した一連の農畜産物に関する問題は、食に対する消費者の関心を非常に大きくしました。更に平成14年12月の市場重視、消費者重視に視点をおいた「米政策改革大綱」の決定やWTO(世界貿易機構)の農業交渉における関税引き下げ要求などにより、かつてない厳しい農業環境となっております。

こうした内外の状況を踏まえて、「安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進」、「販売の戦略化と体制の強化」を重点施策とした都市近郊型農業の確立を目指し「石狩市新農業振興計画」を策定しました。

この新計画策定にあたりましては、農業者、公募市民等で構成する策定協議会での非常に熱心な議論、アンケート調査や小論文にご協力いただきました市民、意見交換会で貴重な意見を下さいました農業者など、多くの関係者による絶大なご協力を賜りましたことにつきまして深く感謝申し上げます。

今後、この計画に基づきシステムづくりなどの事業に取り組んで参りますが、農業関係者の皆さんは勿論のこと、市民や商業関係者との連携がなければ実行できないものばかりです。計画策定と同様に新たな農業・農村づくりのため、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成15年3月

石狩市長 田岡克介

## 目次

<b>第1 計画策定の考え方</b>	1
1 計画策定の趣旨	1
2 前計画での取り組み	1
3 計画の位置付け	2
(1) 計画の性格	2
(2) 計画期間	2
4 計画策定の手法	2
(1) 石狩市新農業振興計画策定協議会	3
(2) 実務担当者会議	3
<b>第2 石狩市農業の現状</b>	4
1 農地	4
(1) 経営耕地面積	4
(2) 農地の保全	4
2 担い手	4
(1) 農家戸数	4
(2) 農業従事者	5
3 農業粗生産額	6
4 生産農業所得	7
<b>第3 石狩市新農業振興計画</b>	8
<b>基本方向1．担い手の育成及び確保</b>	8
1 後継者の育成	8
2 新規参入者の受入環境の整備	8
3 女性の農業参画の推進	9
<b>基本方向2．生産性の向上と経営の効率化</b>	10
1 法人化・組織化の推進	10
2 農業情報システムの構築	10
3 土地利用と作業体系の確立	10
4 振興作物の推進	10

5	農業技術指導者の育成強化	11
6	防風対策	11
<b>基本方向3．安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい</b>		
	<b>農業の推進</b>	12
1	土づくりの推進	12
2	クリーン農業の推進	12
<b>基本方向4．販売の戦略化と体制の強化</b>		
1	販路の拡大	15
2	販売推進体制の強化	16
3	特産品の開発、ブランド品の推進	16
4	地産地消の推進	16
5	集出荷・品質保持対策	16
<b>基本方向5．都市と農村の交流</b>		
1	グリーンツーリズムの構築	17
2	都市住民への情報発信・サービスの提供	17
3	農業教育	17
4	生活環境の整備	17
<b>基本方向6．農業支援システムの構築</b>		
1	システム構築体制の強化	19
2	農業者によるシステム化	19
3	消費者による農業支援	20
4	プロジェクトチームの設置	20
	<b>重点施策</b>	21
第4	<b>石狩市新農業振興計画の施策体系</b>	23
第5	<b>前期実施計画</b>	27

## 資料編

1	石狩市新農業振興計画の策定経過一覧	30
2	提言の依頼書	31
3	提言書	32
4	石狩市新農業振興計画策定協議会設置要綱	33
5	石狩市新農業振興計画策定協議会名簿	34
6	石狩市農業振興計画実務担当者会議名簿	35
7	石狩市新農業振興計画の策定作業	36
8	市民アンケート調査	46
9	農業者との意見交換会	57
10	農業者意向調査	62
11	農業作文・小論文コンテスト	89
12	「石狩市農業振興計画」の評価	90

# 第1 計画策定の考え方

## 1 計画策定の趣旨

石狩市の農業は、農産物価格の低迷による農業所得の減少、後継者不足による農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行するなど多くの課題を抱えており、これらの課題解決のために、平成9年に都市近郊型農業の確立を目指し「石狩市農業振興計画」を策定し施策を講じてきました。

一方、WTO体制化における輸入農産物の影響は非常に大きく、平成13年のネギ、生シイタケ、豊表（イ草）に対するセーフガードは、暫定措置にとどまり本発動に至らなかったことは生産者の不安を一層大きくし、今後のWTO農業交渉に望みを賭けているところです。

さらに、平成13年9月のBSE（牛海綿状脳症）問題、食品の偽造表示事件、輸入農産物の残留農薬問題、無登録農薬問題などは、行政は勿論、生産・流通段階における消費者への信頼を損ない、“食の安全・安心”を今日ほど問われたことはありません。

また、平成14年12月には「米政策改革大綱」が決定され、消費者重視、市場重視に基づく改革は、国や自治体の役割は残るものの農業者自ら生産調整を行わなければならないなど、非常に厳しい農業環境におかれたと言えます。

こうした国内外の激動した情勢、長引くデフレ経済の中で、本市の農業振興は「食料・農業・農村基本法」（平成11年7月制定）の基本理念であります食料の安定供給の確保、多面的機能の発揮、農業の持続的な発展、農村の振興を踏まえ、更なる都市近郊型農業の確立を目指し、農業者や市民の参画をもとに新たな農業・農村の構築のために「石狩市新農業振興計画」を策定することとしました。

## 2 前計画での取り組み

平成12年に「石狩市農業総合支援センター」を設置し、システムづくりに努めてきましたが、とりわけ、グリーンサポーター制度のシステム化や新規就農者のための研修や就農の制度化等を図ってまいりました。

高岡地区の土地改良事業に係る「ミニトマト100棟構想」実現のために農業者の指導や支援を行った結果、ミニトマト生産農家が増え複合経営が進みました。

また、共同作業に係る機械購入の助成によってコストの低減や労働条件の改善が図られるなど、農業振興計画に基づく各施策を推進したことにより一定の効果がありました。

### 3 計画の位置付け

#### (1) 計画の性格

この計画は、“はまなす薫る10万都市”「石狩市新総合開発計画」(平成7年策定)の農業部門である「農業振興」を具体化するものであり、本市の農業施策を推進するための基本計画として位置付けています。したがって、事業の実施、予算の執行などは本計画に基づき総合的、計画的に執行していきます。

また、この計画には、農業者や農業関係機関・団体のみならず消費者や経済関係者が農業と係わる共通の指針として、目指す方向を具体的に示したものです。

#### (2) 計画期間

計画期間は、平成15年度から平成24年度(2003から2012年度)までの10年間とします。なお、社会経済情勢により計画に大きな影響が予想される場合は、見直すこととします。

### 4 計画策定の手法

「石狩市新農業振興計画」を策定するにあたり、主体となる農業者の意見の反映、市民の農業に対する理解や支援、商工業者との連携などを基本として、農業者意向調査、農業者との意見交換会、市民アンケート調査を実施しました。

また、農業者や市民が参画した次の2つの組織を設置し、それぞれの委員による計画策定を基本としました。

#### (1) 「石狩市新農業振興計画策定協議会」

協議会は農業者、市民(公募)の他に、経済関係者、学識経験者、農業関係機関・団体から推薦された20名の委員で構成しています。

#### (2) 「実務担当者会議」

実務担当者会議は、地区代表、農協青年部、農協婦人部の他に、農協、市農業総合支援センター、土地改良区、石狩北部地区農業改良普及センター、市農業委員会及び石狩市の実務担当者が構成員となっております。



策定協議会



実務担当者会議



## 第2 石狩市農業の現状

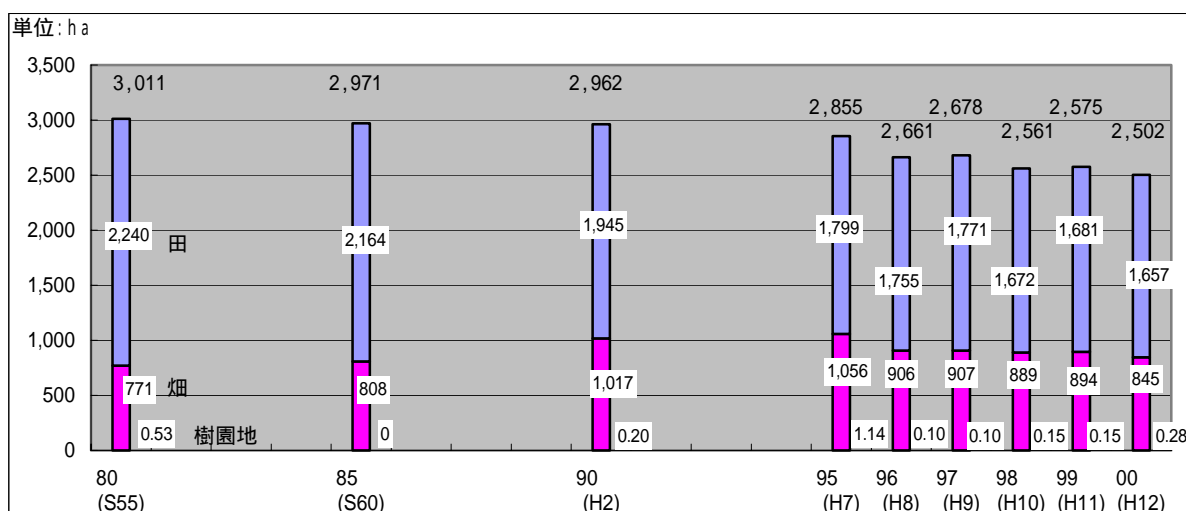
### 1 農地

#### (1) 経営耕地面積

本市の経営耕地面積は減少傾向にあり、平成12年2月1日現在で2,502ha（農業センサス）となっております。昭和55年からの20年間で509haで16%減少です。

このような減少傾向の要因としては、市街化に伴う農地転用が主なものと考えられます。

図1 経営耕地面積の推移（資料：農業センサス・北海道農業基本調査）



#### (2) 農地の保全

平成9年に策定した「石狩市農業振興地域整備計画」では、水稻、畑作、酪農を基幹とし、大都市札幌に隣接している特性を生かした都市近郊型農業としての施設園芸を取り入れ、農用地の合理的な利用保全を図り、農業生産目標の達成を果たすため、農用地2,555haを確保するとなっております。

しかし、農業者の高齢化や担い手不足が進行すると耕作放棄地の発生が懸念されます。

### 2 担い手

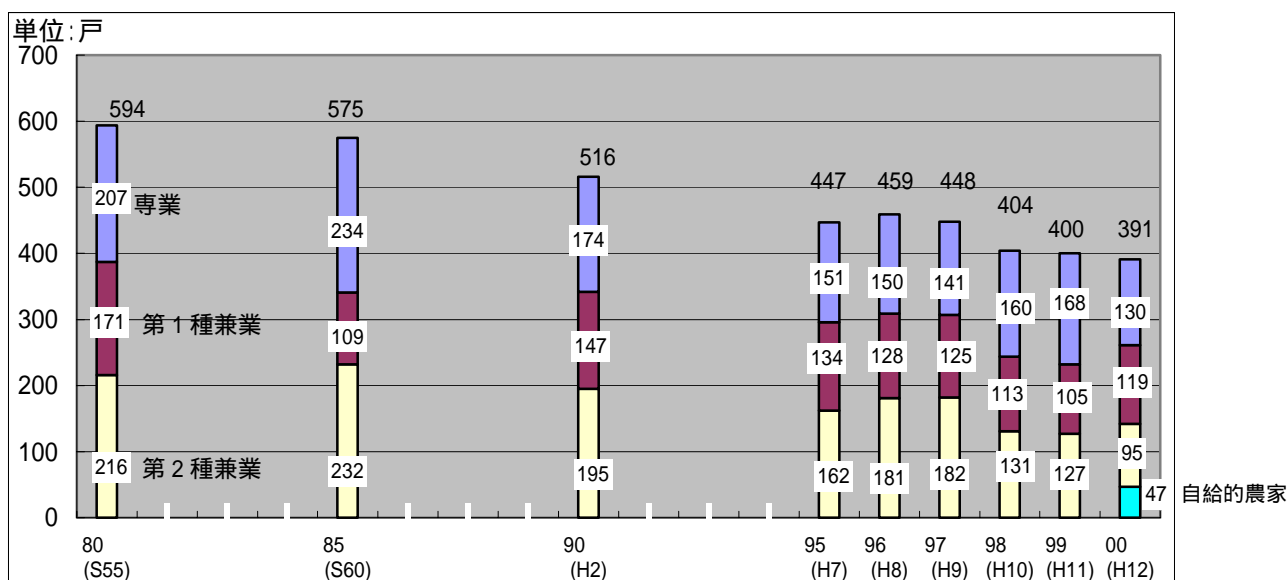
#### (1) 農家戸数

本市の農家戸数は、平成12年2月1日で391戸（農業センサス）となっております。このうち専業農家は、130戸で33.2%、第1種兼業農家が119戸で30.4%、合わせて249戸の63.7%となっております。

ます。残りの第2種兼業農家と自給的農家142戸の36.3%は生計の主を農外所得に依存しております。

農家戸数の減少の要因としては、農業従事者の高齢化、担い手不足（農業後継者難）、農業所得の伸び悩みが挙げられます。

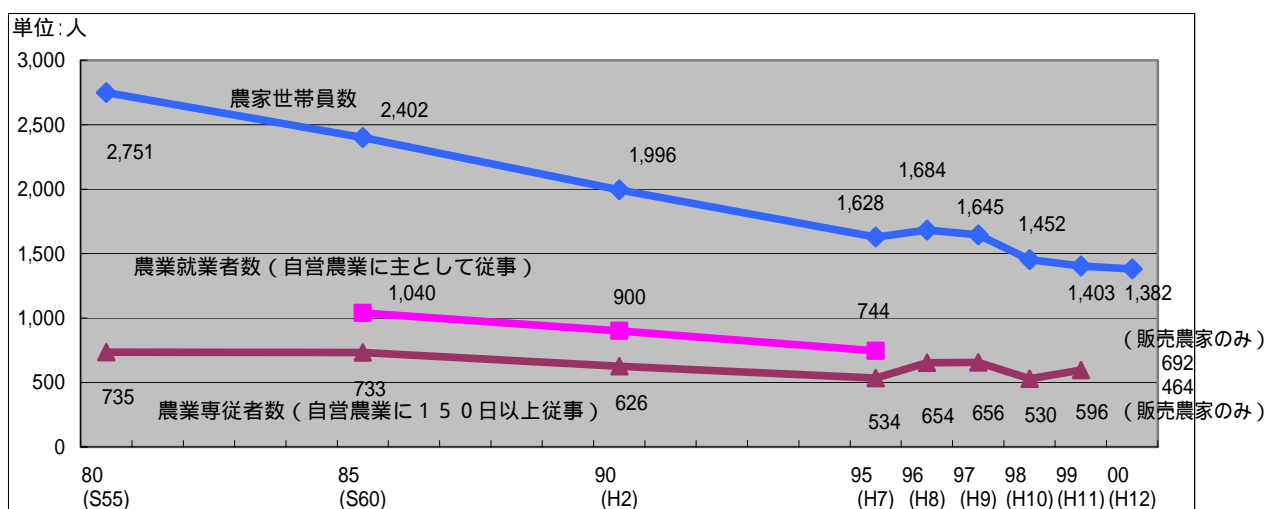
図2 農家戸数の推移（資料：農業センサス・北海道農業基本調査）



(2) 農業従事者

本市の農家世帯員数は、平成12年2月1日現在で1,382人となっております。また、農業就業者（自営農業に主として従事）は692人、農業専従者（自営農業に150日以上従事）は464人となっており、依然として減少傾向が続いています。

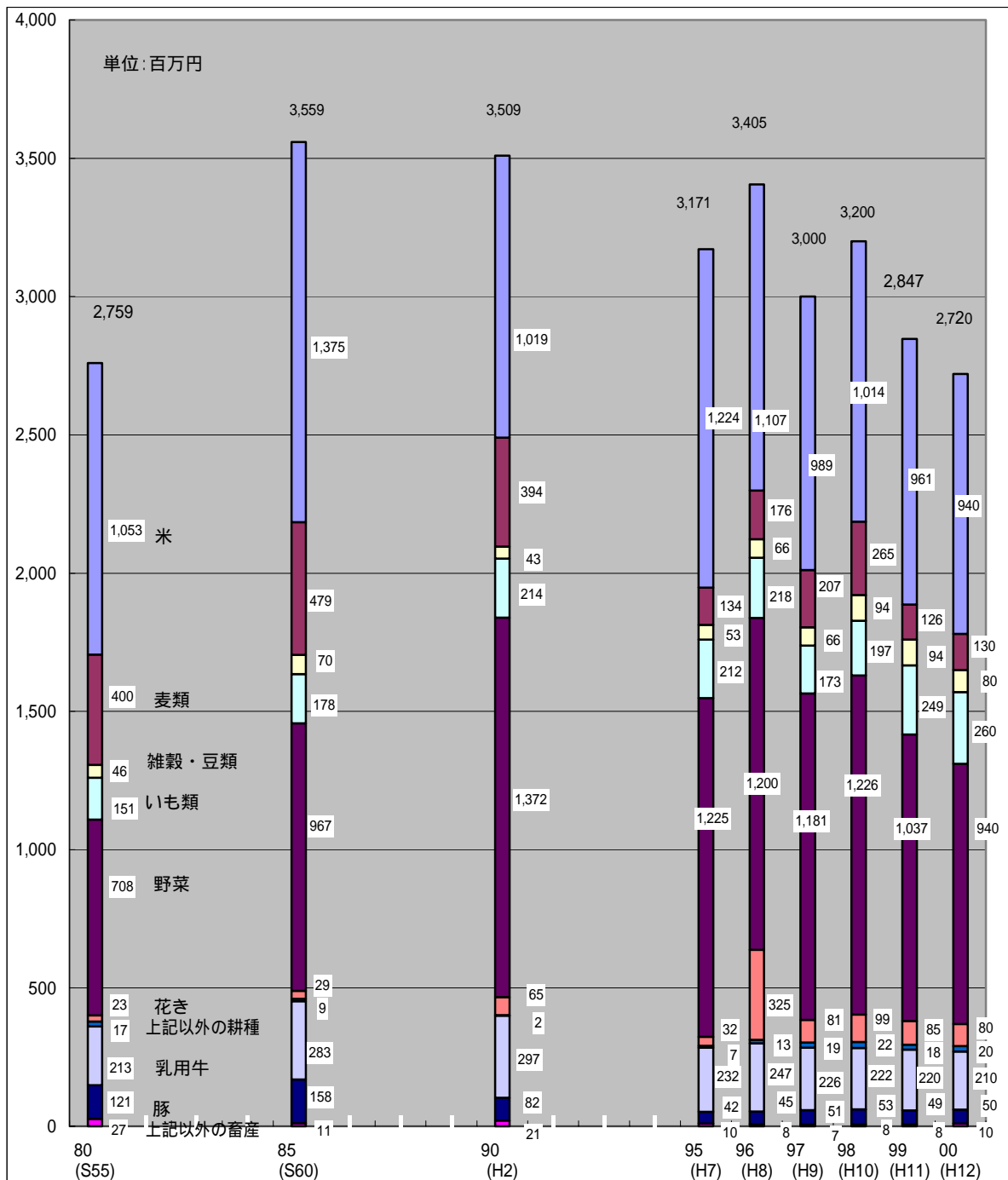
図3 農業従事者数の推移（資料：農業センサス・北海道農業基本調査）



### 3 農業粗生産額

平成12年の農業粗生産額の総額は、2,720百万円(北海道農林水産統計年報)であり、米が940百万円(34.6%)、野菜が940百万円(34.6%)、いも類が260百万円(9.6%)、乳用牛が210百万円(7.7%)の順となっております。

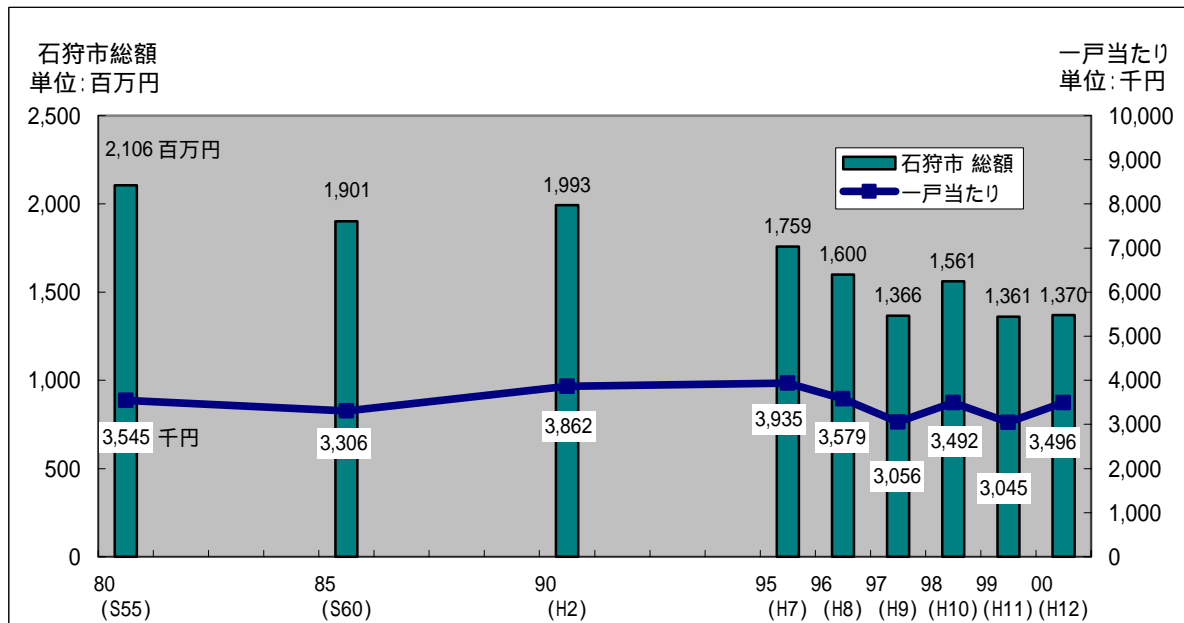
図4 農業粗生産額の推移(資料:北海道農林水産統計年報)



#### 4 生産農業所得

本市の一戸当たりの農業所得は、平成12年で3,496千円とここ数年伸び悩んでいる。その要因としては、経済環境の悪化と農産物価格の低迷によるものと考えられます。

図5 生産農業所得の推移（資料：北海道農林水産統計年報）



## 第3 石狩市新農業振興計画

この計画の策定は、「実務担当者会議」及び「策定協議会」が主体となり取り組みました。後継者問題、農産物価格の低迷、食の安全・安心など多くの課題に対してどのように本市農業を活性化するかについて活発な意見が交わされました。“生産者と消費者の連携の必要性”、“消費者による農業支援の方法”、“個人や団体は一生懸命やっているが、地域や市全体としてどのような仕組みをつくるか、誰がシステムを動かすか”など貴重な意見が出されました。

それら意見を整理し、6本の柱であります基本方向及び主要施策が示されました。

### [ 基本方向1 . 担い手の育成及び確保 ]

農家人口の減少や農業者の高齢化が進行する中で、本市農業を活性化するためには、担い手の育成・確保が重要であります。

このために、後継者の育成や新規参入者の受け入れ環境の整備を推進します。

また、農村女性の経営参画や社会的地位の確保を積極的に推進します。

#### 1 後継者の育成

##### (1) 経営状況の明確化

農業後継者が積極的に経営参画し、営農に対する意欲と能力が発揮できるように、それぞれの役割分担、就業条件、収益の分配などを定めた家族経営協定の締結を図ります。

また、経営状況がよければ後継者が育つことから、簿記記帳や青色申告の励行を図ります。

##### (2) 研修活動の支援

地域リーダーの養成を図るとともに、研修会、講習会の充実や支援及び積極的な参加を促します。

#### 2 新規参入者の受入環境の整備

##### (1) 農地等の受入環境の整備

新規参入者に対して、優良農地の確保、住宅や農業用水の確保などの受入環境の整備を図ります。

(2) 支援体制の充実

農場、機械やハウスのリースなど就農前後の支援体制を充実します。

(3) 新規就農の促進

農業学校へのアプローチや定年就農、定年帰農希望者の相談等の受入体制を整備します。

### 3 女性の農業参画の推進

(1) 女性の地位確立

女性の積極的な経営参画を推進するため、役割分担や就業条件を定めた家族経営協定の締結を推進します。

また、各協議会等への積極的な登用を図ります。

(2) 女性農業者組織の強化

農協女性部や女性アグリ21などの女性農業者組織の強化を図ります。

(3) 研修活動の支援

女性農業者の研修活動を支援します。



農協女性部総会

## [ 基本方向 2 . 生産性の向上と経営の効率化 ]

生産調整に係る小麦、大豆の本作化、大根や人参の連作障害の対策など品質と生産性の向上を図るとともに、都市近郊型農業としての振興作物の推進を図ります。

また、効率的かつ安定的な農業経営を確立するために、法人化や農地の流動化などを推進します。

### 1 法人化・組織化の推進

#### (1) 相談窓口等の充実

経営管理能力の向上、事業の拡大や労働条件の改善など農業経営の法人化を促進するために学習会や相談会を開催するなど相談窓口を充実します。

#### (2) 作業受委託システムの構築

農業経営の支援組織である農作業請負組織の整備や作業の共同化、農業機械の共同化を推進し経営の効率化を図ります。

### 2 農業情報システムの構築

#### (1) 農業のIT化の検討

地理情報システムを活用した農地の利用集積、農用地の集団化などの農地流動化促進の検討、インターネットを活用した販売など農業情報を一元化し幅広い利用方法を検討します。

### 3 土地利用と作業体系の確立

#### (1) 効率的な農地の利用のための調整組織の設置

効率的な農地の利用を図るため、農地の連担的な集積や交換分合などを行うための調整組織を設置します。

#### (2) 遊休化懸念のある農地の有効利用方策の検討

高齢化などで遊休化の懸念のある農地の有効利用方策について検討します。

### 4 振興作物の推進

#### (1) 振興作物の検討及び実証圃場の充実

新たな振興作物の栽培は、市場流通などの需要動向を見極め検討すると同時に、栽培技術などを確立するため実証圃場を充実します。

#### (2) 作付拡大策の検討

振興作物の作付拡大は、契約栽培と市場流通との関わりや生産調整なども含め検討します。

### (3) 施設園芸の推進

花畔・生振地区においてメロンや花きなどの施設園芸の取り組みが行われていたが、最近では高岡地区に畑地かんがい事業実施に伴うミニトマトのハウス栽培が普及しており、今後も都市近郊型農業として施設園芸を推進します。

## 5 農業技術指導者の育成強化

作物毎の栽培技術を習得するために、技術研修など技術指導者の育成強化を図ります。

## 6 防風対策

特に北生振地区の風対策が大きな課題になっていることから、防風林や防風網の設置場所等について検討します。



ミニトマトの選果



## [ 基本方向3 . 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進 ]

化学肥料や農薬の使用に頼った効率的かつ大量生産の従来の農業生産方式が、平成14年に起こった輸入農産物の残留農薬問題や無登録農薬問題により、消費者の農産物に対する不信は大きく、“食の安全・安心”を回復する手立ては国が行う法律の整備は勿論ですが、生産者や農業関係者による一層の努力が求められています。

こうしたことから、農産物生産の基本でもあります「土づくりの推進」と環境に配慮した「クリーン農業の推進」に取り組みます。

### 1 土づくりの推進

#### (1) 輪作体系の確立

連作により土壤中の病原菌、害虫及び土壌理化学性の変化などで農産物の生育に障害が起こり、品質の低下を招くことから、その対策として輪作体系を確立する必要があり、交換耕作など地域的な取り組みを推進します。

#### (2) 堆肥づくりとその利用促進

農業残さである稲わら、籾殻、野菜くずなどを牛糞などと混合する堆肥化及び施設（堆肥場）建設について、耕種農家と畜産農家が連携した組織を立ち上げて検討します。

#### (3) 土壌の物理性・化学性の改善

高品質米の生産、良質な野菜の生産及び過大な施肥による環境への負荷を防止するには、作物に適した土壌環境を作ることが必要です。

そのためには、土壌分析（土壌の物理性、化学性、生物性）に基づいた診断を行い処方箋を作成し、それに基づいた肥培管理に取り組みます。

### 2 クリーン農業の推進

クリーン農業とは「堆肥等の有機物の施用などによる土づくりに努め、化学肥料や化学農薬の使用を最小限にとどめるなど、農業の自然環境機能を維持増進させ、環境との調和に配慮した、安全・安心、品質の高い農産物の生産を進める農業」という概念であります。

クリーン農業を推進するためには、1で掲げた土づくりの推進の他に(仮称)クリーン農業推進協議会の設置やエコファーマーの認定の支援など積極的に取り組みます。

#### (1) クリーン農業推進協議会の設置

生産者や農業関係機関・団体等で構成するクリーン農業推進協議会を設置し、土づくり、減農薬・減化学肥料による栽培、廃プラスチックのリサイクル、バイオマスの利活用などに取り組みます。

(2) 減農薬・減化学肥料による栽培の推進

農薬や化学肥料による環境負荷の軽減と、より安全な農産物の生産のために農薬の使用量を減らしたり、堆肥などの有機質肥料の適正な施用による肥培管理に取り組みます。

(3) エコファーマーの認定、イエス！クリーン（YES！clean）の登録の奨励

減農薬や減化学肥料による農産物生産の取り組みとして、法に基づくエコファーマーの認定や北海道が定めた農産物の表示制度に基づく登録を受け農産物にイエス！クリーン表示をして有利販売に結びつけるよう推進します。

(4) 廃プラスチックの適正処理

使用済みのプラスチックフィルムや空肥料袋など農業用廃プラスチックについて、リサイクルを基本に適正処理を促進し、環境保全に努めるために「(仮称)農業用廃プラスチック適正処理対策協議会」を設置し、地域内で回収・処理体制の整備や排出量の抑制に取り組みます。

(5) トレーサビリティーの導入

農産物の販売に際してトレーサビリティー(生産履歴を追跡する仕組み)を導入し、消費者に対して「安全・安心・信頼」に努めます。



エコファーマーの認定者

#### エコファーマーとは

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」（平成 11 年制定）に基づき、土づくり、化学肥料削減、農薬削減に取り組み環境保全型農業を推進するとして都道府県知事が認定した生産者の愛称です。

石狩市では、平成 14 年に高岡施設園芸生産組合（ミニトマト部会）の 8 名が認定されています。

#### YES！clean とは

「北のクリーン農産物表示制度」（平成 12 年制定）で農薬や化学肥料の使用を削減して生産することを目的に、道立農業試験場等により開発・改良された「クリーン農業技術」を導入して、技術導入前に比べて農薬や化学肥料の投入量を削減して生産された、よりクリーンな農産物について、その栽培方法などを分かりやすく表示することにより、道産農産物の優れた点をアピールするものです。

## 〔 基本方向 4 . 販売の戦略化と体制の強化 〕

農産物の販路を拡大するため、市場流通に加えてスーパー等でのインショップや直売所の一層の充実など多様な流通を推進していきます。

また、消費者ニーズや需要動向などを把握するために消費者や商業者などと連携した販売推進の組織化を検討します。

「地産地消」の推進は、量販店での地場産コーナーの設置、直売所や学校給食での利用のみならず、商工業者との連携、二次産品も含めた地場産品としての普及宣伝など相乗効果を狙った取り組みをします。また、基本方向の 6 に掲げている消費者の参加や消費者による農業支援も積極的に推進します。

また、品質保持や集出荷体制の構築のための施設整備に努めます。

### 1 販路の拡大

#### (1) スーパー等でのインショップの推進

スーパー等での石狩産の常設コーナーの設置等に努めます。

#### (2) 直売所の充実

平成 10 年度に地元農産物を地元で消費する所謂「地産地消」と地元農産物の P R を目的に「 J A いしかり直売所」を開設し年々売上げをのばし市民に定着してきたところです。今後においても、直売所の運営方法や販売方法を充実するなど積極的に取り組んでいきます。

#### (3) 食品メーカーやデパート等との連携

石狩市内および札幌市内の食品メーカー、デパート等との連携による契約生産や契約販売に取り組めます。



J A いしかり直売所

## 2 販売推進体制の強化

### (1) 販売戦略づくりのための組織化の検討

農産物の販売は、農協においては市場流通を基本に時代のニーズに合わせた量販店や百貨店などへの販路拡大を目指しているが、農産物の“安全・安心”という今日的な課題の対応が必要となってきています。

そうしたことから、安全・安心や少量多品目の農産物生産等も含め、新たな販売戦略が必要であり、生産者や関係機関との一層の協調のほか、消費者や商業関係者と連携した中でスタッフの配置や組織化などの販売戦略の検討をしていきます。

### (2) 地場産品普及宣伝のための組織化

農産物の普及宣伝は、農業まつりや地場産フェアなどを実施し、消費者への周知を図っていますが、今後は商工関係者と連携し、二次産品も含めた地場産品として普及宣伝するための組織化に取り組みます。

## 3 特産品の開発、ブランド化の推進

### (1) 特産品の開発

加工グループ等による農産物の加工や規格外品の商品化に取り組みます。

### (2) ブランド化の推進

サヤエンドウやアスパラガスは、市場で一定の評価を得ております。

他の品目につきましても、栽培方法を変えるなど、品質向上の取り組みを徹底し、ブランド化の推進を図ります。

## 4 地産地消の推進

### (1) 供給体制の構築

市内での直売所、量販店、市給食センターなどへの農産物供給に対応するため少量・多品目の生産体制を構築することに取り組みます。また、隣接する札幌市内の量販店や百貨店も地産地消の供給圏域として推進します。

### (2) 学校、飲食店等への積極的な働きかけ

地元農産物の利用を学校や飲食店などに積極的に働きかけていきます。

## 5 集出荷・品質保持対策

### (1) 品質保持のための施設整備

品質保持のための予冷施設等の整備に努めます。

### (2) 集出荷施設の整備

効率的な集出荷体制の構築のために集出荷場や共選場などの施設整備に努めます。

## [ 基本方向 5 . 都市と農村の交流 ]

農業・農村が、農産物の生産・供給のほかに国土・環境の保全、水資源のかん養、美しい景観の形成など、農業・農村のもつ多面的機能や役割について、市民の理解や関心を深めることが重要です。また、都市住民のライフスタイルの多様化などでグリーンツーリズム（都市住民が農村の有する自然や文化、農家の暮らしぶりなどと触れ合う余暇活動）が注目されております。

一方、農村においては、都市住民との交流を通じて農業・農村に対する理解のほかに農業を中心としたビジネスなど、地域農業を活性化させることが重要でありますことから、グリーンツーリズムの構築などの推進に努めます。

### 1 グリーンツーリズムの構築

#### (1) 市民農園、観光農園、修学旅行生の受け入れ体制の整備

観光農園や修学旅行生の受入など一部行われており、平成15年度には市が市民農園を開設するなど、今後においてもこれらを推進していきます。

#### (2) 農業体験等の拠点整備の検討

農作業や農産物の加工体験等のできる拠点整備について検討します。



小学生の農業体験

## 2 都市住民への情報発信・サービスの提供

### (1) ホームページの充実

石狩市農業総合支援センターが作成した「石狩市の概況」のホームページを充実します。

### (2) 人材バンク制度の創設

農業者の優れた知恵や技術等を登録し、市民や学校に利用してもらう百匠マイスター制度の設置を検討します。

### (3) 市民講座の開設

市民農園等で農作物の栽培技術などを指導する市民講座を開設します。

## 3 農業教育

### (1) 学校における食農教育の充実

教育委員会と連携して、市内の小・中学生に対して農作業体験や農業に関する講演等の食農教育を充実していきます。

## 4 生活環境の整備

### (1) 合併浄化槽の普及

自然環境保全や農村の生活環境の向上のため合併浄化槽の普及に努めます。

## 〔 基本方向 6 . 農業支援システムの構築 〕

平成 1 2 年に石狩市農業総合支援センターを設置し、グリーンサポーター事業や新規就農者の研修・就農の制度化などのシステム化に取り組んできました。今後は農地流動化対策や土づくり・クリーン農業推進などに重点的に取り組むため支援センターの機能を強化します。

また、農業関係機関・団体で構成する石狩市営農技術指導班会議の活性化に努めます。

本市は経営形態などで大きく 4 地区に分けられますが、各々の地区の特色を生かした地域農業づくりに取り組みます。

環境保全、癒しなど農業の多面的機能を発揮する農業・農村を市民とともに守り育てます。

### 1 システム構築体制の強化

#### (1) 石狩市農業総合支援センターの機能強化

市農業総合支援センター設置後、グリーンサポーター事業等のシステム化や事業化に取り組んできたところでありますが、石狩市、農業委員会、農協との役割分担や現在の事業継続などを再検討し、センター機能の強化を図ります。

#### (2) 石狩市営農技術指導班会議の活性化

市、市農業委員会、石狩北部地区農業改良普及センター、市農業総合支援センター、農協、3つの土地改良区、石狩地区農業共済組合の実務を担当する職員で構成する石狩市営農技術指導班会議は、定例的に開催され連絡調整（作況、災害等）や営農指導についての協議を行っているが、計画の実効性を上げるために、事業主体となる機関・団体が主要施策等を指導班会議に諮るなど活性化に努めます。

### 2 農業者によるシステム化

#### (1) 地域農業のシステム化

本市は、高岡・五の沢地区、八幡・北生振・美登位地区、生振地区、花畔・南線・樽川地区の 4 地域に区分されますが、農業経営形態や後継者など地域的な特色があります。

こうした地域特性を踏まえ、食の安全性や米政策大綱など消費者重視、市場重視に対応した地域農業・農村のシステムづくりを地域の農業者が自ら取り組むことに対して支援します。

平成 1 4 年度は、「農業・農村チャレンジ 2 1 推進事業」(北海道)として高岡地域で研究会が立ち上がりました。今後他の地域におきましても順次こうした研究会の立ち上げを支援します。



(2) 生産・販売面におけるシステム化

エコファーマーやイエス！クリーンに取り組むグループ、消費者や流通業者と連携し地産地消のシステム化に取り組むグループを支援します。

### 3 消費者による農業支援

食の安全や環境問題は、農業者だけではなく消費者の意識によるところが大きく、特に本市農業の活性化は、消費者による農業へのアプローチが重要と考えております。

市におきましては「消費者協会」や「手づくり食品の会」などによる農業支援がこれまでも行われておりますが、より積極的な支援に取り組みます。

(1) アグリトラスト、オーナー制のシステム化

遊休農地等を新規就農希望の研修生に耕作させて、生産した安全な農産物を消費者の出資者に還元するアグリトラストやオーナー制のシステム化に取り組みます。

(2) 地場農産物の買い支えの制度化

農産物詰め合わせボックス等の定期購入など消費者が買い支える制度化に取り組みます。

(3) 農村女性や高齢者と連携した加工品づくり

消費者と農村女性や高齢者が連携して農産物の加工品づくりをする組織の立ち上げや場所を整備します。

### 4 プロジェクトチームの設置

「基本方向3．安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進」と「基本方向4．販売の戦略化と体制の強化」の2本の柱を重点施策と位置づけ、関係機関・団体に構成するプロジェクトチームにより、推進体制や具体的な事業の方策などを検討し推進していきます。

## 重点施策

平成13年9月のBSE（牛海綿状脳症）問題を始めとして食品表示の偽装事件、輸入農産物の残留農薬問題そして無登録農薬問題など食品（農産物）の安全・安心がこれほど消費者の関心を大きくしたことはありません。

また、平成14年12月の「米政策改革大綱」の決定は、従来型の農業経営から売れる米づくりへと大きく方向転換を図らなければならない状況となりました。

こうした時代の変化に早急に対応することが求められており、6つの基本方向のうち緊急的に実施すべきもの、あるいは特に重要となる施策を優先的に推し進めるために、本計画に重点施策として次の2つを位置付ける事とします。

### 1 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進

安全・安心な農産物を生産するためには、基本となる土づくりや減農薬、減化学肥料による栽培方法などを構築すると同時に、エコファーマーの認定、イエス！クリーンの登録などに積極的に取り組むことが必要である。

こうした取り組みを行うために、農業者や関係機関・団体などで構成する（仮称）クリーン農業推進協議会を設置し、事業を積極的に展開します。

### 2 販売の戦略化と体制強化

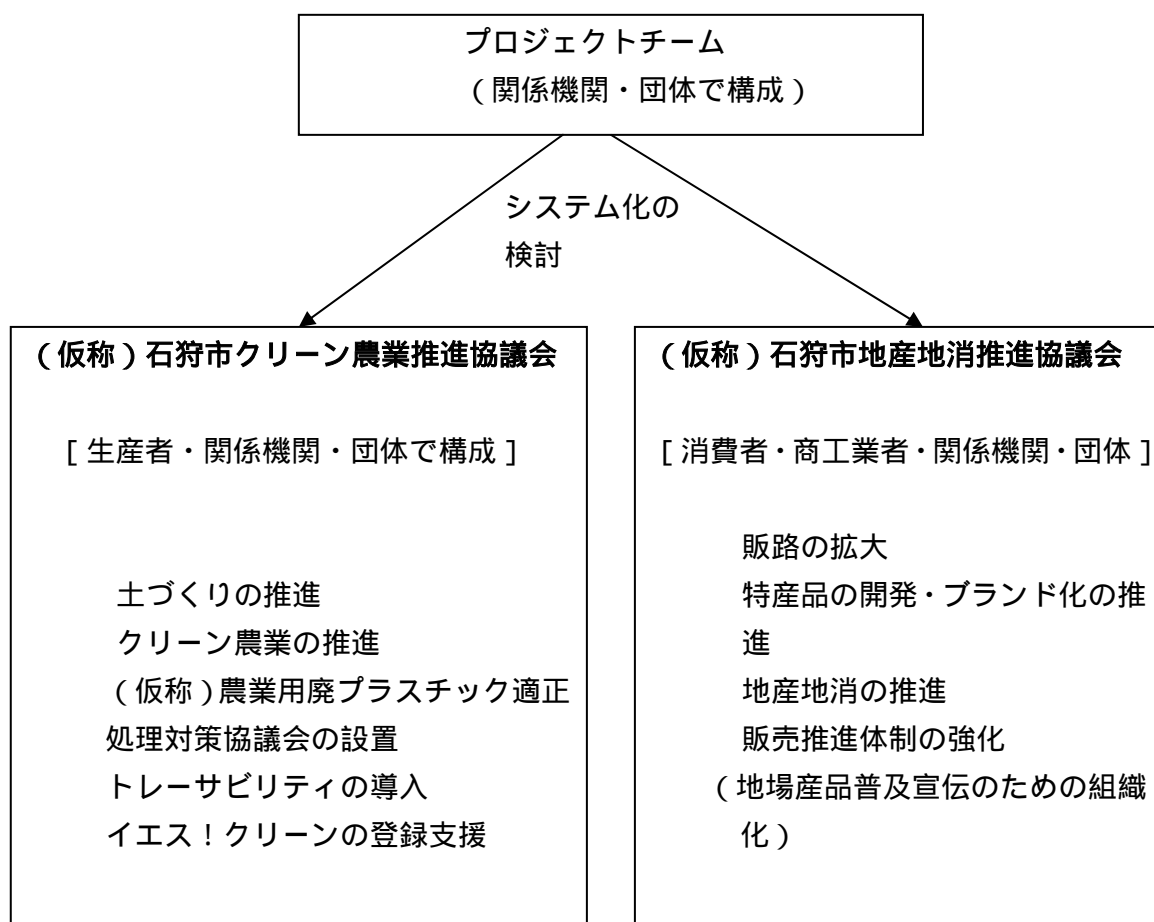
石狩市の農業は、大消費地札幌市に隣接した立地条件を生かした都市近郊型農業の確立を目指し取り組んできているが、農協や地域単位又は市全体としての取り組みまでには至っていません。

販路の拡大、特産品の開発、地産地消などの取り組みは、農業関係機関・団体だけではなく、生産者、消費者、流通関係者等と連携した体制の中で、施策を推進していきます。

## 推進体制

プロジェクトチームによる推進体制や施策の検討を行い、事業実施のための組織を立ち上げます。

### 重点施策の推進体制



## 第4 石狩市新農業振興計画の施策体系

### 基本方向

(主要施策)

(具体的な取り組み)

### 1 担い手の育成及び確保

#### (1) 後継者の育成

経営状況の明確化

- ・ 家族経営協定の締結等
- ・ 簿記記帳・青色申告の励行

研修活動の支援

- ・ 地域リーダーの養成、研修会、講習会の参加促進の充実及び支援

#### (2) 新規参入者の受入環境の整備

農地等の受入環境の整備

- ・ 優良農地の確保、住宅の確保、水の確保等

支援体制の充実

- ・ 農場・機械・ハウスのリースなど就農前後の支援

新規就農の促進

- ・ 農業学校へのアプローチ
- ・ 定年就農・定年帰農希望者の相談・受入体制の整備

#### (3) 女性の農業参画の推進

女性の地位確立

- ・ 家族経営協定の締結(再掲)
- ・ 協議会等への女性の積極的な登用

女性農業者組織の強化

研修活動の支援

## 2 生産性の向上と経営の効率化

- (1) 法人化・組織化の推進
  - 相談窓口等の充実
    - ・ 学習会、相談会の実施
  - 作業受委託システムの構築
    - ・ 農作業請負組織の整備
    - ・ 共同作業化、農業機械の共同化
- (2) 農業情報システムの構築 — 農業のIT化の検討
  - ・ 農地の流動化等
- (3) 土地利用と作業体系の確立
  - 効率的な農地の利用のための調整組織の設置
  - 遊休化懸念のある農地の有効利用方策の検討
- (4) 振興作物の推進
  - 振興作物の検討及び実証圃場の充実
  - 作付拡大策の検討
  - 施設園芸の推進
- (5) 農業技術指導者の育成強化 — 作物毎の専門技術者の育成
- (6) 防風対策 — 防風林・防風網の設置の検討

## 3 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進

- (1) 土づくりの推進
  - 輪作体系の確立
    - ・ 地域的な取り組みの推進
  - 堆肥づくりとその利用促進
    - ・ 耕畜連携（組織化）
    - ・ 堆肥場建設の検討
    - ・ 農業残さ（稲わら、野菜くず）の堆肥化の検討
  - 土壌の物理・化学性の改善
    - ・ 土壌の分析・診断
- (2) クリーン農業の推進
  - （仮称）クリーン農業推進協議会の設置
  - 減農薬・減化学肥料栽培の推進
  - エコファーマー認定、イエス！クリーンの取得の奨励
  - 廃プラスチックの適正処理
    - ・ 協議会の設置等
  - トレーサビリティの導入

#### 4 販売の戦略化と体制の強化

- (1) 販路の拡大
  - スーパー等でのインショップの推進
    - ・常設コーナーの設置等
  - 直売所の充実
  - 食品メーカー・デパート等との連携
    - ・契約に基づく生産、販売等
- (2) 販売推進体制の強化
  - 販売戦略づくりのための組織化の検討
    - ・スタッフの配置、組織化の検討等
  - 地場産品普及宣伝のための組織化
    - ・2～3次産業との連携強化
- (3) 特産品の開発、ブランド化の推進
  - 特産品開発
    - ・農産物の加工、規格外品の商品化
  - ブランド化の推進
- (4) 地産地消の推進
  - 供給体制の構築
    - ・少量・多品目の生産
  - 学校、飲食店等への積極的な働きかけ
- (5) 集出荷・品質保持対策
  - 品質保持のための施設整備（予冷库）
  - 集出荷施設の整備（集出荷場・共選場）

#### 5 都市と農村の交流

- (1) グリーンツーリズムの構築
  - 市民農園、観光農園、修学旅行生の受入体制の整備の取り組みを支援する
  - 農業体験等の拠点整備の検討
    - ・農産物の収穫や加工品の手づくり体験ができる拠点の整備
- (2) 都市住民への情報発信・サービス提供
  - ホームページの充実
  - 人材バンク制度の創設
    - ・百匠マイスター制度の設置を検討する
  - 市民講座の開設
    - ・市民農園等で栽培技術などを指導
- (3) 農業教育
  - 学校における食農教育の充実
    - ・教育委員会との連携強化

(4) 生活環境の整備 ——— 合併浄化槽の普及

## 6 農業支援システムの構築

(1) システム構築体制の強化

農業総合支援センターの機能強化  
営農技術指導班会議の活性化

(2) 農業者によるシステム化

地域農業のシステム化  
・地域単位での農業生産等のシステム化  
生産・販売面におけるシステム化  
・グループによる直売所等のシステム化

(3) 消費者による農業支援

アグリトラスト、オーナー制のシステム化  
地場農産物の買支えの制度化  
農村の女性・高齢者と連携した加工品づくり等  
・組織や場所の整備を検討する

(4) プロジェクトチームの設置 ——— 重点施策については、プロジェクトチームを  
設置して取り組む

### [ 重点施策 ]

- 1 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進
- 2 販売の戦略化と体制の強化

## 第5 前期実施計画

### 関係機関等

市：石狩市  
 農委：石狩市農業委員会  
 普及：石狩北部地区農業改良普及センター  
 支援：石狩市農業総合支援センター  
 農協：石狩市農業協同組合  
 農業：農業者  
 市民：農業者以外の市民等

### 役割

：実施主体  
 ：連携  
 ：指導  
 ：支援

### 基本方向 1 担い手の育成及び確保

主要施策	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)後継者の育成	経営状況の明確化	経営状況の明確化により、後継者が経営に参加しやすい環境づくりをする。 家族経営協定の締結等 簿記記帳、青色申告の励行															
	研修活動の支援	地域リーダーの養成 研修会・講習会の参加促進の充実及び支援															
(2)新規参入者の受入環境の整備	農地等の受入環境の整備	優良農地・住宅・水の確保															
	支援体制の充実	農場・機械・ハウスのリースなど就農前後の支援															
	新規就農の促進	農学校へのアプローチ 定年就農・定年帰農希望者の相談、受入体制の整備															
(3)女性の農業参画の推進	女性の地位確立	家族経営協定の締結 協議会等への女性の積極的な登用															
	女性農業者組織の強化																
	研修活動の支援																

### 基本方向 2 生産性の向上と経営の効率化

主要施策	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)法人化・組織化の推進	相談窓口等の充実	学習会・相談会の実施															
	作業受委託システムの構築	農作業請負組織の整備 共同作業化、農業機械の共同化															
(2)農業情報システムの構築	農業のIT化の検討	農地流動化の推進等に活用する。															
(3)土地利用と作業体系の確立	効率的な農地の利用のための調整組織の設置																
	遊休化懸念のある農地の有効利用方策の検討																
(4)振興作物の推進	振興作物の検討及び実証圃場の充実																
	作付拡大策の検討																
	施設園芸の推進																
(5)農業技術指導者の育成強化	作物ごとの専門技術者の育成																
(6)防風対策	防風林・防風網の設置の検討																土地改良区



基本方向 3 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進

主要施策(重点施策)	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)土づくりの推進	輪作体系の確立	地域的な取り組みの推進															
	堆肥づくりとその利用促進	耕畜連携(組織化) 堆肥場建設の検討 農業残さ(稲わら、野菜くず)の堆肥化の検討															
	土壌の物理・化学性の改善	土壌の分析・診断															石狩北部普及推進協議会
(2)クリーン農業の推進	(仮称)クリーン農業推進協議会の設置																
	減農薬・減化学肥料栽培の推進																
	エコファーマー認定、イエスクリーンの取得の奨励																
	廃プラスチックの適正処理	協議会の設置等															
	トレーサビリティの導入	生産履歴の記録															

基本方向 4 販売の戦略化と体制強化

主要施策(重点施策)	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)販路の拡大	スーパー等でのインショップの推進	常設コーナーの設置等															
	直売所の充実																
	食品メーカー・デパート等との連携	契約に基づく生産・販売等															
(2)販売推進体制の強化	販売戦略づくりのための組織化の検討	スタッフの配置・組織化の検討等															
	地場産品普及宣伝のための組織化	2～3次産業との連携強化															市役所商工業・観光担当部局、 商工会議所、観光協会等
(3)特産品の開発、ブランド化の推進	特産品の開発	農産物の加工、規格外品の商品化															
	ブランド化の推進	他産地品との差別化															
(4)地産地消の推進	供給体制の構築	少量・多品目の生産															
	学校・飲食店等への積極的な働きかけ																
(5)集出荷・品質保持対策	品質保持のための施設整備	予冷庫															
	集出荷施設の整備	集出荷場・共選場															

基本方向 5 都市と農村の交流

主要施策	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)グリーンツーリズムの構築	市民農園・観光農園・修学旅行生の受入体制の整備の取り組みの支援	農業者による取り組みを支援															
	農業体験等の拠点整備の検討	農作物の収穫や加工品の手作り体験ができる拠点の整備															
(2)都市住民への情報発信・サービス提供	ホームページの充実	既設ホームページ(支援センター)の一層の充実															
	人材バンク制度の創設	百匠マイスター制度の設置を検討する。															
	市民講座の開設	市民農園等で栽培技術などを指導															
(3)農業教育	学校における食農教育の充実	教育委員会との連携強化															
(4)生活環境の整備	合併浄化槽の普及																

基本方向 6 農業支援システムの構築

主要施策	具体的な取り組み	説明	各機関等の役割							実施時期(年度)						摘要	
			市	農委	普及	支援	農協	農業	市民	H15	H16	H17	H18	H19	H20以降		
(1)システム構築体制の強化	農業総合支援センターの機能強化																
	営農技術指導班会議の活性化	関係機関・団体による施策の立案及び実施に向けての協議の場とする。															土地改良区、農業共済組合
(2)農業者によるシステム化	地域農業のシステム化	地域単位で農業生産等のシステム化															
	生産・販売面における農業のシステム化	グループによる直売所等のシステム化															
(3)消費者による農業支援	アグリトラスト・オーナー制のシステム化	消費者の出資により農業生産活動が行われ、農地等が保持される制度															
	地場農産物の買い支えの制度化	農産物の定期購買など															
	農村の女性・高齢者と連携した加工品づくり等	組織や場所の整備を検討する。															農村女性・高齢者
(4)プロジェクトチームの設置		重点施策についてはプロジェクトチームを設置して取り組む。															

# 資料編

# 1 石狩市新農業振興計画の策定経過一覧

年 月 日	実 施 内 容
平成13年	
8月26日(日)	市民アンケート調査
9月7日(金)	第1回実務担当者会議
10月19日(金)	第2回実務担当者会議
11月2日(金)	第3回実務担当者会議
11月30日(木)	第4回実務担当者会議
平成14年	
1月8日(火)	第5回実務担当者会議
2月14日(木)	農業者との意見交換会(高岡地区)
	〃(北生振地区)
2月15日(金)	〃(花畔地区)
	〃(生振地区)
3月	農業者意向調査
4月19日(金)	平成14年度第1回実務担当者会議
5月7日(火)	実務担当者会議参画に係る農業者説明会
6月3日(月)	第1回策定協議会 (石狩市長が策定協議会々長へ提言を依頼)
6月24日(月)	第2回実務担当者会議
7月1日(月)	第2回策定協議会
7月18日(木)	第3回実務担当者会議
8月8日(木)	第4回実務担当者会議
8月19日(月)	第3回策定協議会
〃	農業作文・小論文コンテスト選考会
8月25日(日)	〃表彰式
9月6日(金)	第5回実務担当者会議
9月25日(水)	第4回策定協議会
12月10日(火)	第6回実務担当者会議
12月17日(火)	第5回策定協議会
平成15年	
2月21日(金)	第7回実務担当者会議
2月26日(水)	第6回策定協議会
2月27日(木)	策定協議会々長が石狩市長へ提言書を提出

## 2 提言の依頼書

石農水第602号

平成14年6月3日

石狩市新農業振興計画策定協議会

会長 池田 均 様

石狩市長 田岡 克介

「石狩市農業振興計画」の見直しについて（依頼）

本市は、都市近郊型農業の確立を目指すため、「石狩市農業振興計画」を平成9年に策定し、各施策に基づき事業を実施してきたところでありますが、農業者の高齢化、後継者不足及び経済環境の悪化や輸入農産物の影響による価格の低迷など、依然として農業環境は極めて厳しい状況にあります。

また、BSEや食品偽造事件など食品の安全性について、消費者の関心が一層高く、消費者側に立った農産物の生産が急務になっています。

本計画の見直しにあたりましては、こうした内外の状況を踏まえ、新たな本市農業の持続的な発展の方策につきまして議論され、ご提言いただきたくお願い致します。

### 3 提言書

石農協第8号  
平成15年2月27日

石狩市長 田岡克介様

石狩市新農業振興計画策定協議会  
会長 池田均

#### 石狩市新農業振興計画について（提言）

「石狩市農業振興計画」の見直しにあたり、平成14年6月3日、市長から石狩市新農業振興計画策定協議会に対して、本市農業の持続的発展の方策についての提言依頼がありました。

国内では、平成13年に発生しましたBSE（牛海綿状脳症）問題に端を発生し、食品の偽造表示、輸入農産物の残留農薬問題そして無登録農薬問題などで、消費者の食に対する関心は非常に高まってきております。

また、平成14年12月には「米政策改革大綱」が策定され、消費者重視、市場重視の改革やWTOの農業交渉における関税引き下げの要求など、今日の農業はかつてない非常に厳しい環境におかれております。

このような情勢の中で、都市化の影響を強く受けている石狩市の農業も、農家戸数の減少、後継者不足、農産物価格の低迷による農業所得の減少など多くの課題を抱えております。

本策定協議会は、こうした内外の諸情勢を踏まえるとともに、市民アンケート調査、農業者意向調査、市民からの小論文、実務担当者会議における意見などについて6回の会議を開催し検討を重ねてまいりました。

この間の議論を集約すれば、“生産者と消費者との連携”と“地域や市全体としてのシステムづくり”ということになりますが、これを基本に、このほどその検討結果を「石狩市新農業振興計画（案）」として策定しましたので、ここに、提言いたします。

なお、本計画案が決定した後は、情勢変化に対応して常に見直しつつ、着実に実行されることを期待しますが、必要があれば、策定協議会メンバーは協力を惜しまないことを付言いたします。

## 4 石狩市新農業振興計画策定協議会設置要綱

### (設置目的)

第1条 農産物の市場原理導入、食品の安全性など21世紀の農業は大きな嵐の中の船出となり、石狩市の農業もまた大きな試練を向かえ、農業が環境と命を守る最も大切な産業であるとの共通認識のもとに、生産者と消費者などと連携し、石狩市の農業の新たな方向を明らかにするため、石狩市新農業振興計画策定協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 協議会は、「(仮称)石狩市新農業振興計画」策定に関することを所掌する。

### (組織)

第3条 協議会は、委員20名以内で組織する。

2 委員の構成については、別紙のとおりとし、市長が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、「(仮称)石狩市新農業振興計画」策定が終了するまでとする。

### (会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時は、その職務を代理する。

### (会議の招集)

第6条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会が必要と認めた時は、委員以外の者の出席を求め意見を求めることができる。

### (事務局)

第7条 協議会の事務局は、石狩市経済部に置く。

### 附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

## 5 石狩市新農業振興計画策定協議会名簿

(任期 平成14年6月3日～15年3月31日)

職名	氏名	所属
会長	池田 均	北海学園大学経済学部教授
副会長	北倉 公彦	"
委員	横山 勇	農業経営者(石狩市農業協同組合)
委員	池端 規明	" ( " )
委員	大嶋 綾	女性農業者( " 女性部長)
委員	後藤 桂子	" ( " 女性副部長)
委員	山内 一夫	若手担い手農業者( " 青年部長)
委員	松本文 男	" ( " 青年副部長)
委員	新居 義光	石狩市農業協同組合 理事(営農経済委員長)
1 委員	荃津 与一 松本 睦夫	石狩市農業委員会 委員(石狩市農業振興協議会会長)
委員	出塚 康清	北生振土地改良区 理事長
委員	小倉 弘子	石狩北部地区農業改良普及センター 所長
2 委員	前野 清光 吉田 範夫	コープさっぽろ いしかり店 統括店長
委員	樋口 裕晃	ビッグハウス花川店 店長
委員	神田 久雄	石狩商工会議所 副会頭
委員	出倉 信子	(社)石狩観光協会 副会長
委員	後呂 壽重	公募市民
委員	瀬田松 瑋子	"
委員	佐藤 幸枝	石狩青年会議所 副理事長
委員	江丸 悦子	石狩消費者協会 理事

(事務局)

湯野 勉	石狩市経済部長
川端 章義	" 経済部農水産課長
桜田 雅人	" " 農水産課農政担当 主査
岩井 裕樹	" " " 主任

1 荃津 与一(平成14年6月3日～7月24日)

松本 睦夫(平成14年8月19日～)

2 前野 清光(平成14年6月3日～10月12日)

吉田 範夫(平成14年12月17日～)



## 6 石狩市農業振興計画実務担当者会議名簿

機関・団体名	役職名・地区名等	氏名
農業者 (地区代表 青年部 女性部)	高岡・五の沢地区	松本 尚俊
	"	小池 裕明
	北生振・美登位・八幡町	山田 光男
	"	横山 勇
	花畔・樽川地区	伊藤 康雄
	"	池端 規明
	生振地区	吉田 裕行
	"	関戸 信宏
石狩市	若手担い手代表(農協青年部)	山内 一夫
	"	松本 文男
	女性農業者代表(農協女性部)	大嶋 綾
	"	後藤 桂子
	経済部農水産課農政担当主査	高橋 進
	" " " 主任	吉田 雅人
	" " " 主査	大橋 英信
	石狩市農業委員会	事務局農業振興主査
石狩市農業総合 支援センター	事務局長(石狩市経済部参事)	吉田 公恵
	事務局員(石狩市経済部参事付主査)	吉田 正一
	"(石狩市農業協同組合営農部 営農課農業支援センター係長)	吉田 正一
石狩北部地区農業 改良普及センター	地域第3係長	石川 卓治
	主査	杉浦 輝陽
	専門普及員	佐々木 忍
	"	小笠原 史子
土地改良区	"	斎藤 史子
	北生振土地改良区事務局長	塚原 正靖
	石狩高富土地改良区事務局長	菊地 信幸
石狩市農業協同組合	石狩・花畔土地改良区事務局長	大島 求
	営農部 部長(兼米麦課長)	吉岡 義秀
	" 青果課長	氏家 暢
	" 営農課長	吉岡 尚英
アドバイザー	" 営農課営農係長	加藤 浩光
	北海学園大学経済学部教授	池田 均彦
事務局 (石狩市)	"	北倉 公彦
	経済部農水産課長	川端 章義
	" 農水産課農政担当主査	桜田 雅人
	" " 主任	岩井 裕樹

## 7 石狩市新農業振興計画の策定作業

平成13年度は、平成9年に策定した「石狩市農業振興計画」について、関係機関・団体の実務を担当する「実務担当者会議」を立ち上げ評価を行うとともに、農業者の意向調査、市民アンケート調査、「農業者との意見交換会（地区別）」、統計資料の収集を行い石狩市農業の現況把握を行いました。

平成14年度は、それらの評価の結果や現況把握（アンケート調査・統計資料）を整理し、石狩市農業の抱えている課題を明らかにした中で、市民等も含めた「石狩市新農業振興計画策定協議会」を設置し、また、昨年立ち上げました「実務担当者会議」に地区代表、農協青年部、農協婦人部の方々も新たに参画した中で新計画策定に取り組みました。

基本方向については、次の6つの柱が示されました。

- 1 担い手の育成及び確保
- 2 生産性の向上と経営の効率化
- 3 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進
- 4 販売の戦略化と体制の強化
- 5 都市と農村の交流
- 6 農業支援システムの構築

この6つの基本方向を推進するため、主要施策や具体的な取り組みについて議論をし、次のとおり策定に至りました。

## 基本方向1 担い手の育成及び確保

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

### 1 実務担当者会議

後継者の育成

- ・ システム的なものがあれば、第3者を後継者とすることができるし、株式会社の参入もよいと思う。

女性の参画

- ・ 女性の経営参加、家族協定の締結のほか他の市町村では女性委員を入れているところもあり、ある程度のポストは必要である。

### 2 意見交換会

新規就農者は、年金生活者についても考えるべきである。

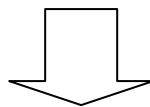
高齢化や農産物の価格低迷は、全市的な問題として取り組んでほしい。この地域（生振）は、後継者もいない、高齢化が進んでおり、将来について何も無い。耕作できなくなった農地の問題が目前にある。

（地区毎に連絡会議のようなものを立ち上げ検討する方法もある。）

負債農家のことも考えた中で農業を考える必要がある。

株式会社の参入について

- ・ 株式会社の参入は、資材置き場や耕作放棄地にならないような慎重な対応が必要である。



[ 主要な施策・具体的な取り組み ]

### 1 後継者の育成

経営状況の明確化

家族経営協定の締結等

簿記記帳・青色申告の励行

研修活動の支援

地域リーダーの養成、研修会、講習会の参加促進の支援等

### 2 新規参入者の受入環境の整備

農地等の受入条件の整備

優良農地の確保、住宅の確保、水の確保等

支援体制の充実

農場・機械・ハウスのリースなど就農前後の支援

新規就農の促進

農業学校へのアプローチ

定年就農・定年帰農希望者の相談、受入体制の整備

### 3 女性の農業参画の推進

女性の地位の確立

家族経営協定の締結（再掲）

協議会等への女性の積極的な登用

女性農業者組織の強化

研修活動の支援

## 基本方向2 生産性の向上と経営の効率化

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

### 1 実務担当者会議

法人化の推進

- ・ 支援センターの機能を強化し、学習会等の開催をすべきである。

法人化、作業受委託の組織について

- ・ 地区内の請負組織から始めて地域や市域内へと広める。

輪作体系の見直し

- ・ 連作障害の原因分析をする。また、交換耕作など地区内から始める。

農地利用集積のシステム化

- ・ 土地利用と作業体系の確立が必要である。

振興作物の作付面積拡大について

- ・ 奨励金制度はメリット、デメリットがあり、生産にプラスなら賛成であるが検討を要する。

安全・安心な農産物の生産について

- ・ 栽培履歴を付け消費者に訴え、売れるものを作る。

風対策

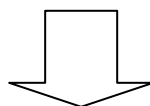
- ・ 右岸地区には防風林が少なく、風による被害が多いので道路用地、排水用地、土地改良区の未利用地などに植樹をしてほしい。

### 2 意見交換会

支援策は、ハードの他にソフトの部分にもしてほしい。

市や農協にスペシャリストを置いてほしい。

生産調整の制約を石狩市がどのように受け止めるかの基本がなければ  
(位置付け) 具体的な集団化等は考えられない。  
農業経営者もユニクロの経営手法が当てはまる。他産業の経営方式で  
ある生産コストを下げる努力が必要である。  
農業は、今の政策・制度の中でやるしかないが、昔の形では駄目だ。



[ 主要な施策・具体的な取り組み ]

- 1 法人化・組織化の推進
  - 相談窓口等の充実
  - 学習会、相談会の実施
  - 作業受委託システムの構築
  - 農作業請負組織の整備
  - 共同作業化、農業機械の共同化
- 2 農業情報システムの構築
  - 農業のIT化の検討
  - 農地の流動化等
- 3 土地利用と作業体系の確立
  - 効率的な農地の利用のための調整組織の設置
  - 遊休化の懸念のある農地の有効利用方策の検討
- 4 振興作物の推進
  - 振興作物の検討及び実証圃場の充実
  - 作付の拡大策の検討
  - 施設園芸の推進
- 5 農業技術指導者の育成強化
  - 作物毎の専門性技術者の育成
- 6 防風対策
  - 防風林、防風網の設置の検討

## 基本方向3 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

### 1 実務担当者会議

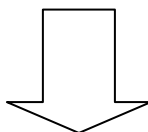
土づくりについて

- ・堆肥の導入として耕畜連携及び組織化が必要である。また、土壌診断に基づく施肥、
- ・稲わら、野菜くずの堆肥化や廃プラスチックの処理など協議会的なものを立ち上げ、クリーン農業のシステム化が必要である。
- ・エコファーマーの認定、イエス！クリーンの登録及びJASの認定を目指す。

### 2 意見交換会

農業も環境問題に取り組む必要があ。

- ・稲わらの堆肥化や有機農業にはコストが掛かるので支援が必要である
- ・廃プラの処理について協議会を立ち上げリサイクルに向けた対策を講じるべきである。



[ 主要な施策・具体的な取り組み ]

### 1 土づくりの推進

輪作体系の確立

地域的な取り組みの推進

堆肥づくりとその利用促進

耕畜連携（組織化）

堆肥場建設の検討

農業残さ（稲わら、野菜くず）の堆肥化の検討

土壌の物理・化学性の改善

土壌分析、診断

### 2 クリーン農業の推進

クリーン農業推進協議会の設置

減農薬・減化学肥料栽培の推進

エコファーマー認定、イエスクリーンの取得等の奨励

廃プラスチックのリサイクルの推進 協議会の設置等

トレーサビリティの導入

## 基本方向4 販売の戦略化と体制の強化

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

### 1 実務担当者会議

安全・安心な農産物の販売ということで、エコファーマーの認定を受けた生産者の農産物に、市民から愛称を募集するなど販売戦略につなげる。

販路の拡大として、市場だけに頼らないインショップ、アンテナショップ、地域で認知される地産地消の取り組みが必要である。

また、ブランド化の推進、特産品の開発に取り組む。

販売戦略の選択肢の一つとして消費者などを加えた組織化の検討を考えてもいい。

### 2 策定協議会

商工会議所のマップも、レストランだけでなく石狩の特産物も収穫時期に合わせて載せる方法もある。

直売所は新鮮で安いというイメージが必要である。また、「番屋の湯」は市外のお客が来るのでいいと思う。

「消費者協会」や「手づくり食品の会」は人参の加工品を作っているが、農業者も巻き込んで大きなグループで人参の商品化が出来ればいいと思う。

商品化は、生産者と消費者や商工業者との連携が必要である。

加工は、趣味的グループではなく農協の女性部とか生産者と消費者が連携した組織が事業を行うのでなければ行政支援は難しい。

指導農業士の仲間は一生懸命やっている。百姓は、無農薬だけでは生きていけない現実を知ってほしい。消費者の望んでいることがなかなか出来ない。消費者と百姓との触れ合いはどうしたらよいか時間をかけて話し合ったらいい。

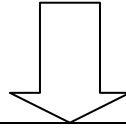
消費者が安全・健康を求めるなら穴あき・虫食いは我慢してほしい。

### 3 意見交換会

農産物販売について

- ・地元農産物の販売は、農業祭りの即売会的なものではなく、継続的に消費者に供給できるシステムが必要である。
- ・農業者は保守的になっている。小さいこと（直売所、女性の加工）からやっていくべきだ。また、販路拡大は、市場以外でも選択肢はある、石狩は立地条件がいい。
- ・スーパーなどと連携した販路の開拓が必要である。

[ 主要な施策・具体的な取り組み ]



- 1 販路の拡大
  - スーパー等でのインショップの推進
  - 常設コーナーの設置等
  - 直売所の充実
  - 食品メーカー・デパート等との連携
  - 契約に基づく生産、販売等
- 2 販売推進体制の強化
  - 販売戦略づくりのための組織化の検討
  - スタッフの配置、組織化の検討等
  - 地場産品普及宣伝のための組織化
  - 2～3次産業との連携
- 3 特産品の開発・ブランド化の推進
  - 特産品の開発
  - 農産物の加工、規格外品の商品化
  - ブランド化の推進
- 4 地産地消の推進
  - 供給体制の構築
  - 少量・多品目の生産
  - 学校・飲食店等への積極的な働きかけ
- 5 集出荷・品質保持対策
  - 品質保持のための施設整備
  - 集出荷施設の整備



## 基本方向5 農村と都市との交流

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

### 1 実務担当者会議

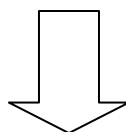
市民農園、観光農園及び修学旅行生を受け入れる。  
農村の優秀な人材を登録し、農作物の作付や加工の指導、農村の文化・歴史の伝承などをする百匠マイスター制度をつくる。  
個人的に中学生の農業体験や本州の農業高校の実習受け入れを行っているが、こうしたことを積極的にすることが大切である。  
都市住民が栽培から収穫までできる「農業公園」をつくってはどうか。  
(ダッシュ村構想的なもの)

### 2 策定協議会

石狩は、じゃがいも、人参、大根など3種類を組み合わせ、農家に管理してもらい、収穫に行く一口5千円のオーナー制が出来ると思う。  
市民向け栽培講座や農学校の開設をするといい。市民アンケート調査でも市民の関心が高い。  
新規就農者を消費者が応援するシステム、アグリトラストを石狩で勧めれば消費者は応援できる。  
神奈川県「中高年のホームファーム制度」(定年退職者が助っ人に)、家庭菜園以上の交流とか農家っぽいのをやりたい。

### 3 意見交換会

花畔営農団地約100haは、不在地主が3分の1おり将来的に耕作放棄地が予想されることから、貸し農園を考えてはどうか。  
札幌市の「さとらんど」のような施設を検討する必要がある。  
農業体験事業は、農産物を作る大変さや大切さを教えることが必要である。



[ 主要な施策・具体的な取り組み ]

### 1 グリーンツーリズムの構築

市民農園、観光農園、修学旅行生の受け入れ体制整備の支援  
農業体験のできる拠点の整備の検討  
農産物の収穫や加工品の手づくり体験が出来る拠点づくり

### 2 都市住民等への情報の発信、サービス提供

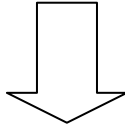
ホームページの充実  
人材バンク制度の創設の検討  
百匠マイスター制度の設置を検討する。

<p>市民講座の開設</p> <p>市民農園等で栽培技術等を指導</p> <p>3 農業教育</p> <p>学校における食農教育の充実</p> <p>教育委員会との連携強化</p> <p>4 生活環境の整備</p> <p>合併浄化槽の普及</p>
---

## 基本方向6 農業支援システムの構築

[ 実務担当者会議・策定協議会・意見交換会の意見 ]

<p>1 実務担当者会議</p> <p>支援センター機能の強化</p> <p>クリーン農業、耕畜連携、農作業の受委託などをシステム化することが重要である。</p> <p>振興計画は、システムづくりに重点をおいて策定すると良い。</p> <p>支援センターの機能強化等が計画の実現を担保する鍵となる。</p> <p>担い手についても、地域との協力などシステムの的なものがあれば第三者や企業の参入も良い。</p> <p>2 策定協議会</p> <p>消費者、生産者、販売業者が集まってコーディネーターグループを立ち上げると良い。</p> <p>観光協会、商工会議所など各々の団体での話は垣根が出来るので、行政の調整・指導が必要である。こうした会が必要である。</p> <p>各団体から出ている場合は、団体に持ち帰って何が出来るか協力できるかを踏まえて出席したい。</p> <p>石狩は、個々や団体は一生懸命やっているが連携がないし仕組みもないのが大きなウィークポイントである。</p> <p>仕組みづくりをどうするかは、農家や団体が主体なのでどのようにやっていくかを考える。行政は、条件を整備したり支援をすることである。</p> <p>形式的な振興会はいらない。機能する組織を作り上げる。</p> <p>3 意見交換会</p> <p>恒常的に地場農産物を市内で販売するシステムが必要である。</p>
---



[ 主要な施策・具体的な取り組み ]

- 1 システム構築体制の強化  
農業総合支援センターの機能強化  
営農指導班会議の活性化
- 2 農業者によるシステム化  
地域農業のシステム化  
地域単位で農業生産等のシステム化に取り組む  
生産・販売面におけるシステム化  
グループによる直売所等のシステム化に取り組む
- 2 消費者による農業支援  
アグリトラスト・オーナー制のシステム化  
地場農産物の買支えの制度化  
農村の女性・高齢者と連携した加工品づくり等  
組織や場所の整備を検討する
- 3 プロジェクトチームの設置  
重要施策については、プロジェクトチームを組織して取り組む。

**重点施策について**

平成13年のBSE（牛海綿状脳症）から無登録農薬の問題まで、“食の安全性”に関する事件がこんなに新聞紙上を賑わした事はなく、策定委員会でも議論となり安全・安心な農産物の提供など緊急的に対策を講じなければならないものなどを重点的に推進するために、提案して頂いた次の2本の基本方向が決まりました。

- 1 安全・安心な農産物を提供するための環境に優しい農業の推進
- 2 販売の戦略化と体制強化

## 8 市民アンケート調査

【目的】 農業振興計画の見直しにあたり、農業に対する市民の意識を調査し次期計画における施策の資料とする。

【実施日】 平成13年8月26日(日)

【対象】 石狩市農業まつりの来場者

【回答者数】 415名

【結果】

「農業まつり」について

1. 「農業まつり」に来た目的 (複数回答)

	回答数	%
ア 農産物即売会で地場の農産物を買う。	267	38.9
イ 「加夢加夢」の無料配布がある。	75	10.9
ウ イベントがある。	135	19.7
エ フリーマーケットがある。	173	25.2
オ その他	18	2.6
無回答	19	2.8
計	687	100

2. 「農業まつり」への希望 (別紙)

「地産地消」について

1. 石狩の農産物を利用していますか。

	回答数	%
ア 利用している。	305	73.5
イ あまり利用していない。	75	18.1
ウ ほとんど利用していない。	23	5.5
無回答	12	2.9
計	415	100

2. 直売所(共選場前)を利用していますか。

	回答数	%
ア 利用したことがある。	239	57.6
イ 知っているが利用したことがない。	99	23.9
ウ 知らないし利用したことがない。	62	14.9
無回答	15	3.6
計	415	100

3. 地元の農産物を生協やスーパーで販売したら買いますか。

	回答数	%
ア 他の産地と同じであれば買う。	310	74.7
イ 多少値段が高くとも地物の新鮮な農産物を買う。	87	21.0
ウ 他産地のものを買う。	9	2.2
無回答	9	2.2
計	415	100

4. 「地産地消」についての考え (別紙)

「都市と農村の交流」について

1. 「観光農園」のイチゴ狩りを知っていますか。また、行ったことがありますか。

	回答数	%
ア 行ったことがある。	123	29.6
イ 知っているが、行ったことがない。	157	37.8
ウ 知らないし、行ったことがない。	124	29.9
無回答	11	2.7
計	415	100

2. 「体験農園」をやってみたいと思いますか。

	回答数	%
ア 体験したい。	228	54.9
イ どちらともいえない。	141	34.0
ウ 体験したくない。	27	6.5
無回答	19	4.6
計	415	100

3. 「市民農園」をやりたいと思いますか。

	回答数	%
ア やりたい。	213	51.3
イ どちらともいえない。	149	35.9
ウ やりたくない。	40	9.6
無回答	13	3.1
計	415	100

4. 農村で余暇を過ごせる施設が必要と思いますか。

	回答数	%
ア 必要である。	255	61.4
イ どちらでもいい。	114	27.5
ウ 必要ない。	10	2.4
無回答	36	8.7
計	415	100

5. 「都市と農村の交流」について (別紙)

「定年帰農・新規参入」について

1. 定年後または機会があれば自分で農業をしたいと思いますか。

	回答数	%
ア 農業をしたい。	119	28.7
イ どちらともいえない。	185	44.6
ウ 農業はしたくない。	81	19.5
無回答	30	7.2
計	415	100

2. 定年後または機会があれば農村で農家の人と一緒に農作業をしてみたいと思いますか。

	回答数	%
ア 思う。	180	43.4
イ どちらともいえない。	122	29.4
ウ 思わない。	54	13.0
無回答	59	14.2
計	415	100

「農業・農村の多面的機能の発揮」について (別紙)

消費者の役割について (別紙)

その他石狩の農業について思っていること (別紙)

回答者の内訳

居住地	回答数	%
1 石狩市内	168	40.5
2 札幌市	62	14.9
3 江別市	2	0.5
4 厚別市	1	0.2
5 新篠津村	1	0.2
無回答	181	43.6
計	415	100

性別	回答数	%
1 男性	85	20.5
2 女性	138	33.3
無回答	192	46.3
計	415	100.0

## 市民アンケート 別紙

### 2 「農業まつり」への希望

- ・ 毎年楽しみにしている。(4名)
- ・ 今後も続けてほしい。(11名)
- ・ 年に2回くらいやってほしい。
- ・ もう少し派手でも良い。
- ・ だんだん立派になってくる。
- ・ 年々小さくなっているような気がする。色々大変だろうが規模を縮小しないしてほしい。
- ・ 今までどおりで良い。(4名)
- ・ 駐車場が遠い(3名)
- ・ 駐車場を増やしてほしい。(3名)
- ・ 車で来られない人にとっては不便だ。
- ・ 座る場所が少ないので、もっと席を増やしてほしい。(7名)
- ・ トイレが遠くて不便。(子連れ)
- ・ トイレをもっと増やしてほしい。(2名)
- ・ 日陰で休める場所がほしい。
- ・ 休憩テントがほしい。
- ・ 買い物待ちできるパラソル、待合ベンチを増やしてほしい。
- ・ 会場内に廃品回収容器を増やしてほしい。
- ・ 広告を多くしてほしい。
- ・ 場所の地図があるとうれしい。
- ・ 道、案内のコーナーがほしい。
- ・ フリーマーケットの出店数を増やしてほしい。
- ・ ステージ上の演芸に工夫を凝らし、各種の芸能を発表してほしい。
- ・ 子供のイベントを増やしてほしい。
- ・ 来年もキャラクターショーをやってほしい。
- ・ イベントを増やしてほしい。
- ・ 歌手を呼んだらどうでしょうか。(2名)
- ・ ビンゴゲーム等をやってはどうでしょうか。
- ・ カラオケ大会をやってはどうでしょうか。
- ・ 子供が楽しむものばかりではなく、若い人たちが興味を持つものをもう少し増やすと、もっと人が来ると思う。
- ・ 農産物を使った即席料理の講習会等を行ってほしい。
- ・ 人参だけでなく、じゃがいも、玉ねぎ等の詰め放題もやってほしい。
- ・ 野菜のほかに米等もあるのなら買いたい。



- ・ 果物もたくさん扱ってほしい。
- ・ 力自慢、米俵がなくなり残念。
- ・ 牛乳配布をまた行ってほしい。(3名)
- ・ 食べる物の値段が少し高い気がする。
- ・ 並ばなくても「加夢加夢」の配布があると良い。
- ・ 米の配布人数を増やしてほしい。小さな子供は対象とせずにできれば1家族1つにしてほしい。
- ・ 米もらえなかった。子供は対象外にしてほしい。すごく腹が立つ。来年は少し考えたほうが良いのではないか。
- ・ 米配布の件、今年から変更になりましたが、この方法は大変良いと思う。
- ・ 音が少し高くて耳が痛い。
- ・ 大人のマナーが気になるので、アナウンス等で呼びかけをしてほしい。
- ・ 手伝いだけなので見学する時間がほしい。そして農産物を買いたい。
- ・ もちまきが好き。続けてほしい。
- ・ もっとたくさんの種類がほしい。
- ・ さまざまな野菜やイベントがあって楽しめて良い。(2名)
- ・ とても楽しかった。(2名)
- ・ 札幌からきたのだが、目的がわかりにくい。
- ・ 頑張ってください。
- ・ 大変良いことと思う。(2名)
- ・ もう少し安くしてほしい。

#### 4 「地産地消」についての考え

- ・ 形やサイズにこだわらず、生産されたものは不ぞろいでもすべて販売すべきだ。
- ・ M、Lなどサイズ売りではなく、山積みにして売ってほしい。
- ・ 規格品の販売も希望。
- ・ 地元で取れるものがあれば地元で消費するのが良い。(2名)
- ・ 新鮮なものをどんどん出してほしい。(2名)
- ・ 輸入物は好きではないのもっと地元のものを増やしてほしい。
- ・ 取立てはおいしいのだから利用できればありがたい。(2名)
- ・ 有機野菜を食べてみたい。
- ・ 農薬が少ないとうれしい。
- ・ 学校給食で使ってほしい。
- ・ 馬鈴しょ、人参がとてもおいしい。
- ・ きゅうり、なすがあったら良い。
- ・ 生産者の顔が見えたほうが安心なので、住所と名前を入れてほしい。(3名)

- ・ これからもおいしいものをたくさん作ってほしい。
- ・ ハネ品などを含め生産ライン外の物も安く売ってほしい。(4名)
- ・ 直売所へバスに乗ってよく行くが、あまり安くないので少し考えてしまう。
- ・ 品質、味、値段がよければ買いたい。
- ・ もっと幅広くなれば良いと思う。
- ・ もっと流通したほうが良い。
- ・ とてもよいことだと思うが、まだ地域に広がっていないのではないかと思う。
- ・ どんどん努力して販売してほしい。(2名)
- ・ もっと積極的に宣伝してほしい。(2名)
- ・ 土日だけでなく個人的に道路わきで売っている人もいて利用できるのが良い。
- ・ 週末だけでなく、毎日だとうれしい。
- ・ 石狩市民がもっと利用できるよう拡大してほしい。
- ・ 販売所が遠い。
- ・ 近くのスーパーでも扱っていたらとても良い。(2名)
- ・ 地産専門のマーケット(建造物)があればよいと思う。
- ・ 地産品を売るおしゃれな建物が必要なのではないか。
- ・ 地産地消に貢献したい。(2名)
- ・ 地産地消は良いことだ。
- ・ 年に2回行えばいい。

##### 5 都市と農村の交流について

- ・ 農産物のおいしく食べる方法を教えてほしい。
- ・ 市農協でいちご狩り、芋掘りツアーをやってほしい。
- ・ 野菜作りのコツを教えてもらいたい。
- ・ 花川地区と高岡・生振との交流。
- ・ こういうイベントを札幌にも教えてほしい。
- ・ 広報札幌で見たがPRをもっとしてほしい。
- ・ 学校給食で使っている時は、積極的に児童に向けてPRをすべきだ。
- ・ PR不足ではないでしょうか。(4名)
- ・ 交通の便をもっと良くしてほしい。
- ・ 温泉に直売所などがあれば良い。
- ・ 1日だけの体験学習ではなく、学校や一般向けの合宿などがあると良い。
- ・ ホームステイなど交流型にしたほうが良い。
- ・ 生産者の家に泊まるとか、1泊2日で体験できるようなことがあると良い。
- ・ 体験農園や他の手段で交流していくべき。
- ・ もっと親密に交流し、助け合ってほしい。

- ・ 消費者協会の会員なので農家へ行っています。
- ・ 新鮮な野菜類が食べたい人は、直接農家のほうへ行って買うのではないでしょうか。
- ・ もう少し交流の回数を多くし、農業への理解を増やすと良い。
- ・ 自然に都市と農村が交流できる場があると良い。
- ・ もっと交流できる機会を多くするべきだ。(2名)
- ・ 特に子供たちが交流する機会があれば良いと思う。
- ・ これから老人が増えるので、農業を通じて交流することは良いことだと思う。
- ・ 農業関係者以外の方が気軽に利用できる施設や農園を増やす。
- ・ 体験する機会があれば、もっと地場産の物を食べたくならないか。
- ・ 各地で消費者と生産者の様々な催しがあると思いますが、もっとふれあう機会を作ることが大切だと思う。
- ・ 顔の見える交流(有機認証がなくても顔が見えていれば)安心して買うことが出来る。(3名)
- ・ 年に一度、田植え等をやってみたい。秋には収穫祭をやってほしい。
- ・ 都市と農村を分けなくても良いと思う。
- ・ 交流するのは無理だと思う。

#### 多面的機能の発揮について

- ・ 老人ホームなどの委託。(4名)
- ・ 老健等の施設農園。(2名)
- ・ 授産施設を農村に設置し、農作業を行わせる。
- ・ 老後の生きがいのある施設と併設すればよい。
- ・ 老人なので食べるほうで協力します。
- ・ 福祉にもっと広めてほしい。
- ・ 福祉施設に農園を設けるのはいいことだと思うし、作ったものを作った人が販売するとか、農家を見学させたりする場があれば良い。(2名)
- ・ 健常者と施設居住者との農産物を食べながら交流する機会があれば良いと思う。
- ・ りんくるで行っている60歳以上に貸し出す農園の拡大を望む。
- ・ 土は人に力を与えてくれるので、福祉農園や老人ホームで農作業をするのは良い。
- ・ 老人とのコミュニケーションの場として利用できるのではないか。
- ・ 安らぎや憩の場になるのではないか。(2名)
- ・ 泊りがけで農業体験のできる農家や宿泊所があってもいい。
- ・ 子供たちにもっと農業を進んでさせれば良い。
- ・ 小さな子供も参加できる農作業があれば良い。
- ・ 年に1回子供と親との交流の場として農園や田植えなどを企画してほしい。

- ・ 子供から老人まで、種まきから収穫まで参加できる企画があれば良い。
- ・ もっと一般開放された農場があれば良いと思う。
- ・ 石狩市民・農村との交流。
- ・ 市内以外にも活用してもらったらいい。
- ・ 中学生に物を作る体験をさせるとか、上の例など良い。
- ・ 体験・収穫をしてみたい。
- ・ 多面化すればたくさんの方が農業に興味を持つと思う。
- ・ 家庭での農作物作りの指導をしてほしい。
- ・ 農業生産一本ではなく、多面的に行うことはよいことだと思う。
- ・ 農業についてはなじみがないのでよくわからないが、例にあるような活用は良いと思う。
- ・ 例にあるように新しい分野と連携することで活性化できるのではないのでしょうか。
- ・ 畑の耕作や家畜の育成と併用した老後の生きがいのある施設と併用（例）
- ・ 例えばに同感です。（2名）
- ・ そこで取れた作物を売るなど、いろんなことを企画していけば良いと思う。
- ・ 単に農産物の生産をするよりも、上記の例の方向は新たな分野の開拓として必要であるが、それには行政の強力なバックアップが必要であり財政的には難しいと考えられる。
- ・ 政府の農業政策はどうなっているのかが見えない。国内自給率が低下する中で農業を守り育てる政策が必要。その運動の先頭にJAがあるのではないか。積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 治水環境の保全としてはとても大切と思う。また土に触れることにより心の癒しにもなると思う。
- ・ 土に触れているのが楽しい。
- ・ 取れたもので何か作ってほしい。ポテトレストランなど。
- ・ 農村景観を守るのは良いことだ。どこか懐かしい。
- ・ 生産したものを手に喜ぶことができそうでよいことだと思う。
- ・ 付加価値をつけたほうが良い。
- ・ 多面的機能を発揮することは必要なことだと思う。
- ・ 多面的になることは良いことだと思う。（4名）
- ・ とても関係があることと思うので、どうぞ考えてください。
- ・ よくわからない。

#### 消費者の役割について

- ・ 一緒に農業をするようにすべきだ。
- ・ 水田をつくってみたい。

- ・ 田植え、稲刈りの手伝い。
- ・ 収穫の手伝いをしてみたいと思う。( 3 名)
- ・ 畑を借りて農作物を作りたい。( 3 名)
- ・ 米の直売ルート作り。
- ・ 子供と親の体験があれば良い。
- ・ 何日かの体験農業など。( 2 名)
- ・ 学生のグループ体験をやってほしい。
- ・ 夏休みなど農家の家にホームステイして農業体験をしたい。
- ・ よく、さとらんどが芋植えとか適当に参加して体験できるものがあるように石狩でもそういうことをしたらいいと思う。
- ・ 畑を借りて野菜を農家に管理してもらい、自分で収穫してみたい。
- ・ 定年退職者等に農地を貸与して、自給率アップに努める必要がある。
- ・ 地場で作られた物が安全で、より安く買いやすいなら参加する。
- ・ 例 1 ( 5 名)
- ・ 例 2 ( 1 5 名)
- ・ 例 3 ( 1 8 名)

#### 石狩の農業について思っていること

- ・ 札幌に近いのでもっともっと売れると思う。
- ・ 地元のわりに農産物はおいしいが値段が高い。( 3 名)
- ・ もっと多くの野菜を作って、安く売ってほしい。( 3 名)
- ・ 県外(高く取引できる所)ばかりに目を向けて地元あまり優しさは感じられない。
- ・ 安い。
- ・ 選果場の見学をさせてほしい。
- ・ 農家を会社化してやってみる。
- ・ オーナー制の農園があったら良い。
- ・ 直売を増やしてほしい。( 3 名)
- ・ 例えばきゅうりなど曲がったものでも好きなのでどんどん売れば良い。( 3 名)
- ・ 良品商品をもっと地元で販売してほしい。
- ・ 農家の方にいろいろもらう取れたてが一番おいしい。そのおいしいものを買うチャンスが多くなればいいと思う。
- ・ スーパーに石狩産のものがあまり売っていないので、たくさんおいてほしい。( 6 名)
- ・ 道内産の野菜をお店でたくさん売ってほしい。買いたい。
- ・ 販売組合の他にもっといろんなところで野菜が買えれば良い。

- ・ できるだけ産直の方法を取って消費者に届けていただけたらよいと思う。
- ・ 石狩ブランドを作ることと売る方法。
- ・ 石狩特産品を大いに宣伝したほうが良い。( 9 名 )
- ・ 本州へもっと宣伝すべきだ。
- ・ 品質の向上と宣伝に努めてほしい。
- ・ 代表的生産物がわからない。農産物より水産物が目立つ。
- ・ 味の向上に努力してほしい。
- ・ 作物について研究すべきだ。特に果物の味に努力をすべきだ。
- ・ もっと石狩の農業等を知る方法があれば良い。
- ・ 農協のミステリーツアーは子供の為にもとてもすばらしく思う。地元で農産物が取れるのをうれしく思う。
- ・ 新鮮で良い野菜を今まで以上に買いたいと思います。
- ・ 安全なものを食べに行きたい。
- ・ 地元で農業が行われているのは良いことだ。
- ・ 石狩市は良い市だ。
- ・ 石狩の農業がこんなに盛んだったのかと思った。
- ・ 市に発展してすべての面において大いに発展するよう努力していることがうかがえる。
- ・ 団地住民には遠い存在に思う。
- ・ 減農薬の野菜を増やしてほしい。( 2 名 )
- ・ どのくらい農薬が使われているのかを知りたい。
- ・ 安全、安心が今後の課題。有機、無農薬を生産者は心がけ、消費者は支援が必要。
- ・ ホクレンで働いているが、石狩産野菜は評判が良い。
- ・ 産地のものを食べるのができ最高だと思う。
- ・ お金の面でやる気があっても農業ができない人もいることをわかってほしい。
- ・ 農業を続ければ続けるほど赤字が増えているような気がする。
- ・ 一生懸命やっていると思う。感謝している。
- ・ とても大変だと思っている。
- ・ 天候に左右されやすい仕事でしょうが頑張ってください。( 2 名 )
- ・ 頑張っておいしいものを提供してください。
- ・ いつも楽しい。( 2 名 )
- ・ 毎年の開催が楽しみ。( 2 名 )
- ・ もっとイベントを増やしてほしい。

## 9 農業者との意見交換会

新たな農業振興計画に農業者の意見を反映させるため、平成14年2月14～15日に市内4地区において実施した。

### 【実施状況】

#### 高岡・五の沢地区

日時 平成14年2月14日(木)午前9時30分～12時  
会場 高岡ふれあい研修センター  
対象農事組合 五の沢、高岡第1、高岡第2、高岡第3、高岡第4、高岡第5  
参加農業者数 11名

#### 北生振・美登位・大曲・八幡町地区

日時 平成14年2月14日(木)午後1時30分～4時  
会場 JAいしかり本所  
対象農事組合 美登位、北生振、大曲、大曲中央、八幡町  
参加農業者数 10名

#### 花畔・樽川地区

日時 平成14年2月15日(金)午前9時30分～12時  
会場 花畔農住団地集会所  
対象農事組合 北区、農住、中央、新道、上組、上花、明生、南線協栄、樽川  
参加農業者数 8名

#### 生振地区

日時 平成14年2月15日(金)午後1時30分～4時  
会場 JAいしかり生振支所  
対象農事組合 生振第1、生振第2、生振第3、生振第4、生振第5、生振第6、  
生振第7、生振第8  
参加農業者数 12名

## 【農業者の意見】

### 高岡・五の沢地区

- 1 農業振興計画の所得目標700万円は、5年経過しても平均するとそうはなっていない。計画がよく分からない。  
しかし、農業総合支援センターのグリーンサポーター事業は評価できる。パートの確保が出来たので、作付け面積や種類に巾が出来た。
- 2 防除機、土壌改良材、ハウスの購入に対して市が支援してくれるのは理解しているが、農業は儲からない。子供の就職についても市役所や消防に決めればよかったと言うが、“なぜ農業をしないのか”とは誰も言わない。
- 3 スーパーなどと連携した販路の開拓が必要である。石狩市は大消費地札幌に近い立地条件をもっと生かすべきである。
- 4 輸入野菜の農薬問題など消費者に理解させる必要がある。しかし、農薬は絶対に使用しない訳にはいかない。
- 5 農産物の販路の開拓、ブランド化も必要であるが、大量生産しても消費されずに廃棄される今までの経済システムを変えなければ問題の解決にはならない。
- 6 稲わらを焼却せず堆肥化する有機農業にもコストが掛かる。農産物の価格が低迷している状況では大変なので支援をしてほしい。
- 7 所得補償がなければ農業は潰れる。
- 8 支援策は、ハード部分以外にソフト部分にもしてほしい。
- 9 市や農協にスペシャリストを置いてほしい。(農協の専門技術者を現役の人にしてほしい。)

### 北生振・美登位・八幡町・大曲地区

- 1 農家に対する営農計画の個別指導も大切であるが、庭先販売の組織化、直売所の設置、低農薬・有機栽培による産直活動、学校給食・病院への地元農産物の供給などの施策を農協や市役所が取り組むべきである。  
また、農業委員会の職員の増員も必要である。



- 2 農業振興計画で評価されるのは、農業総合支援センターの設置であるが、支援センターの具体的な事業の提示が必要である。
- 3 こうした意見交換会の場に農協の役員も参加すべきである。(こんなことだから「石狩の農業は、「大都会の田舎者である」といわれる。)
- 4 北生振地区の地下水が悪く菅のチューブが目詰まりしてしまう。
- 5 農産物(人参)の規格外品を加工して販売するためのシステムを考えるべきである。  
また、地元の農産物を地元で販売するのは農業祭りぐらいなので恒常的に地場産品が市内で販売できるシステムが必要である。
- 6 行政は、計画を作るだけでなく実効性のあるものにしなければ信頼性がなくなる。
- 7 有機農業や販売ルートの開拓などの施策は、農協と行政が連携し指導力を発揮しないと駄目である。他の市町村では立派にやっている。
- 8 農業振興計画の策定は、今まで関係団体等のトップで構成される営農対策協議会に諮られ決定していたが、今日のように現場の声を聞いてくれることは非常に意味があることである。  
しかし、担い手である若い人や女性が来ていないのは残念である。今後会議のある方を工夫してほしい。  
また、産直や直売、あるいは加工品は農協女性部の担うところが大きい。
- 9 石狩市の農業において、生産調整の制約をどのように受け止めるかと言う基本がなければ、具体の集団化等は考えられない。  
また、こうした話合いは部会等の組織と両面でやるべきだ。

#### 花畔・樽川地区

- 1 花畔営農団地の約100ヘクタールは、不在地主が多く(約1/3)野菜づくり農家が借りて作付けしているが、野菜の価格が低迷している中では賃借関係がなくなり耕作放棄地が予想される。  
地主で組織している開発組合(花畔営農地域開発組合 組合長 溝淵光

雄)の責任もあるが、行政でも考える必要がある。

提案として、札幌に近いと言う立地条件を生かした貸し農園を考えてはどうか。朝市の併設もよい。

また、札幌市のサトランドのような施設を検討する必要がある。

- 2 新規就農者に対する基準も必要であるが、年金生活者似についても考えるべきである。
- 3 農産物の加工販売について、農協女性部がやっているなのでその支援が必要ではないか。
- 4 直売場での販売は、自信を持つ事が必要である。(スーパーとの違い)  
また、季節販売という考え方もある。(仁木町の例もある。)
- 5 農業体験事業は、農産物を作る大切さを教えることが必要である。
- 6 農作物の盗難が多く被害が増大しているので防止について広報誌等に出してほしい
- 7 ユニクロの経営手法は、農業経営者にも当てはまる。他産業の経営方式  
生産コストを下げる努力が必要である。  
また、新規就農者は補助制度や貸付制度を計算しているが、本当に農業  
がやれるか心配である。
- 8 農業も環境問題に取り組む必要がある。廃プラの処理について協議会を  
立ち上げリサイクルに向けた対策を講じるべきである。
- 9 この地域でも高齢化や農産物の価格低迷が問題となっている事から全市  
的な問題として取り組んでほしい。
- 10 農業の株式会社の参入については、資材置き場や耕作放棄地にならない  
よう慎重な対応が必要である。

#### 生振地区

- 1 現計画の評価は、達成できたもの出来なかったものを具体的にすべきである。また、農家戸数の減少や高齢化といった状況があるので基礎的な資

料も出して議論すべきである。

転作生産調整制度についての位置づけ（奨励金額の高い麦、牧草を中心とするか、金額の低い所得の上がる野菜を集団的にするか）をしなければ、農協の営農計画に振り回されるだけだ。

- 2 農業は、今の政策・制度のなかでやるしかないが、昔のような形では駄目だ。地元農産物の販売は、農業祭りなどの即売会的なものではなく、継続的に消費者に供給できるシステムが必要である。特にPR事業は、供給体制が出来ていなければ意味がない。
- 3 この地域の個別作物の指導はよいが、後継者もいない、高齢化が進んでおり将来性について何も無い。耕作できなくなった農地の問題が目前にある。  
（この問題は、他の地区も同じである。地区毎に協議会を立ち上げ検討する方法もある。）
- 4 石狩市のアスパラの評価は高い、石狩ブランドが必要である。市も市場の勉強をしてほしい。
- 5 直売所を地域毎に設置する事を考えてはどうか。
- 6 こうした意見交換会を多くやってほしい。
- 7 農協も米の販売について、小売業者の販売方法を検討してはどうか。  
米作りは合わないが地味でもやる。野菜だっていい年ばかりとは限らない。また、連作障害で収益が減っている。
- 8 コストダウンをしなければならないが、機械の共同化がうまくいかない。
- 9 農業者は保守的になっている。小さい事（直売所、女性の加工等）からやっていく事が必要である。販路拡大は、市場以外でも選択肢はある、石狩は立地条件がいい。
- 10 負債農家のことも考えた中で農業を考える必要がある。

## 10 農業者意向調査

農業者の経営状況、担い手の実態を把握するため、石狩市内の農事組合員を対象に調査を実施した。集計は市全体及び4つの地区別に行った。地区の区分は下記のとおり。  
(実施時期 平成14年3月)

地区	農事組合名
花 畔	花畔北区、花畔農住、花畔中央、新道、上組、上花、明生、南線協栄、樽川
生 振	生振第1、生振第2、生振第3、生振第4、生振第5、生振第6、生振第7、生振第8
北生振	美登位、北生振、大曲、大曲中央、八幡町
高 岡	五の沢、高岡第1、高岡第2、高岡第3、高岡第4、高岡第5

### 【集計結果】

「未回答」を除いてパーセンテージを出しています。

#### 1. 調査数及び回収数

	市全体	花 畔	生 振	北生振	高 岡
調査対象数	546	214	149	86	97
回収数	307	96	94	54	63
回収率	56%	45%	63%	63%	65%

質問1. あなたは経営耕地面積が10a以上ありますか。

	市全体		花 畔		生 振		北生振		高 岡	
ある	264	89%	64	70%	93	100%	50	96%	57	93%
ない	33	11%	27	30%	0	0%	2	4%	4	7%
未回答	10	-	5	-	1	-	2	-	2	-
計	307	100%	96	100%	94	100%	54	100%	63	100%

質問2. あなたは、平成14年2月1日前の1年間における農産物の総販売額が15万円以上ありましたか。

	市全体		花 畔		生 振		北生振		高 岡	
あった	204	70%	43	48%	70	75%	41	80%	50	83%
ない	89	30%	46	52%	23	25%	10	20%	10	17%
未回答	16	-	7	-	1	-	5	-	3	-
計	309	100%	96	100%	94	100%	56	100%	63	100%

質問3. あなたは、所有している農地の貸付又は、経営委託(貸付耕地)していますか。

	市全体		花 畔		生 振		北生振		高 岡	
はい	89	31%	27	31%	29	32%	15	30%	18	31%
いいえ	198	69%	60	69%	62	68%	35	70%	41	69%
未回答	22	-	9	-	3	-	6	-	4	-
計	309	100%	96	100%	94	100%	56	100%	63	100%

[ . 家族構成について]

問1 あなたの性別を教えてください。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
男性	252	86%	74	80%	79	88%	48	92%	51	86%
女性	41	14%	18	20%	11	12%	4	8%	8	14%
未回答	14	-	4	-	4	-	4	-	2	-
計	307	100%	96	100%	94	100%	56	100%	61	100%

問2 あなたの年齢はおいくつですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
29以下	5	2%	0	0%	1	1%	1	2%	3	5%
30～39	17	6%	0	0%	1	1%	7	13%	9	15%
40～49	30	10%	3	3%	4	4%	12	23%	11	18%
50～59	70	24%	21	23%	18	19%	17	33%	14	23%
60～64	47	16%	9	10%	20	22%	10	19%	8	13%
65～69	46	16%	19	21%	19	20%	2	4%	6	10%
70以上	81	27%	38	42%	30	32%	3	6%	10	16%
未回答	13	-	6	-	1	-	4	-	2	-
計	309	100%	96	100%	94	100%	56	100%	63	100%

問3 あなたは認定農業者ですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
はい	141	56%	27	44%	52	60%	36	72%	26	46%
いいえ	113	44%	35	56%	34	40%	14	28%	30	54%
未回答	27	-	9	-	8	-	5	-	5	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問4 あなたの家族で農業に従事している人は何人ですか。  
(年間60日以上農業に従事している人)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
自分1人	61	26%	15	29%	35	43%	4	9%	7	12%
2人	123	52%	30	58%	39	48%	26	59%	28	48%
3人	32	14%	4	8%	6	7%	9	20%	13	22%
4人	16	7%	3	6%	1	1%	4	9%	8	14%
5人以上	4	2%	0	0%	1	1%	1	2%	2	3%
未回答	45	-	19	-	12	-	11	-	3	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問5 あなたに農業後継者はいますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
同居従事	30	12%	7	11%	5	6%	9	20%	9	16%
別居従事	6	2%	1	2%	1	1%	3	7%	1	2%
別居後継	12	5%	6	10%	3	3%	0	0%	3	5%
同居未定	63	25%	12	19%	19	22%	12	27%	20	34%
後継なし	142	56%	36	58%	60	68%	21	47%	25	43%
未回答	28	-	9	-	6	-	10	-	3	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

[ . 農業所得等について]

問6 あなたの経営は、専業ですか兼業ですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
専業	154	66%	28	49%	52	67%	32	73%	42	75%
1種兼業	35	15%	11	19%	12	15%	7	16%	5	9%
2種兼業	46	20%	18	32%	14	18%	5	11%	9	16%
未回答	44	-	13	-	15	-	11	-	5	-
計	279	100%	70	100%	93	100%	55	100%	61	100%

問7 (1) あなたの去年(平成13年)の農畜産物販売高はどれくらいでしたか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
100万未満	56	25%	19	36%	27	35%	3	7%	7	13%
100万以上300万未満	49	22%	14	26%	15	19%	7	16%	13	24%
300万以上500万未満	20	9%	1	2%	7	9%	5	12%	7	13%
500万以上700万未満	16	7%	7	13%	8	10%	0	0%	1	2%
700万以上1000万未満	19	8%	1	2%	9	12%	6	14%	3	6%
1000万以上1500万未満	20	9%	2	4%	5	6%	7	16%	6	11%
1500万以上2000万未満	20	9%	4	8%	3	4%	5	12%	8	15%
2000万以上3000万未満	19	8%	2	4%	2	3%	7	16%	8	15%
3000万以上	8	4%	3	6%	1	1%	3	7%	1	2%
未回答	54	-	18	-	17	-	12	-	7	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(2) あなたの去年(平成13年)の農業所得(農畜産物販売額 - 農業経費)はどれくらいでしたか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
100万未満	74	33%	26	53%	28	34%	10	23%	10	20%
100万以上300万未満	72	32%	18	37%	25	30%	10	23%	19	39%
300万以上500万未満	29	13%	0	0%	13	16%	5	11%	11	22%
500万以上700万未満	14	6%	2	4%	4	5%	7	16%	1	2%
700万以上1000万未満	17	8%	1	2%	8	10%	4	9%	4	8%
1000万以上1500万未満	7	3%	1	2%	2	2%	3	7%	1	2%
1500万以上2000万未満	6	3%	1	2%	1	1%	2	5%	2	4%
2000万以上3000万未満	3	1%	0	0%	0	0%	2	5%	1	2%
3000万以上	2	1%	0	0%	1	1%	1	2%	0	0%
未回答	57	-	22	-	12	-	11	-	12	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(3) あなたの去年(平成13年)の転作奨励金(とも補償・経営確立助成等)はどれくらいでしたか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
100万未満	85	41%	22	73%	15	18%	17	40%	31	62%
100万以上300万未満	83	40%	8	27%	46	55%	14	33%	15	30%
300万以上500万未満	25	12%	0	0%	12	14%	9	21%	4	8%
500万以上700万未満	8	4%	0	0%	6	7%	2	5%	0	0%
700万以上1000万未満	6	3%	0	0%	5	6%	1	2%	0	0%
1000万以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	74	-	41	-	10	-	12	-	11	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問8 あなたの去年(平成13年度)の農業以外の収入はいくらでしたか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし	76	32%	15	25%	35	42%	7	16%	19	37%
100万未満	59	25%	13	22%	12	14%	16	36%	18	35%
100万以上300万未満	57	24%	13	22%	21	25%	14	32%	9	18%
300万以上500万未満	24	10%	7	12%	9	11%	6	14%	2	4%
500万以上1000万未満	17	7%	9	15%	5	6%	0	0%	3	6%
1000万以上	4	2%	2	3%	1	1%	1	2%	0	0%
未回答	44	-	12	-	11	-	11	-	10	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問9 あなたの兼業の業種はなんですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし	92	45%	17	31%	33	51%	16	42%	26	57%
漁業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
土木・建設業	41	20%	7	13%	13	20%	16	42%	5	11%
製造業	3	1%	1	2%	0	0%	0	0%	2	4%
運輸・通信業	8	4%	2	4%	2	3%	1	3%	3	7%
サービス業	11	5%	3	5%	2	3%	1	3%	5	11%
その他	49	24%	25	45%	15	23%	4	11%	5	11%
未回答	60	-	16	-	12	-	17	-	15	-
計	264	100%	71	100%	77	100%	55	100%	61	100%

問10 兼業の従事の仕方はどれにあたりますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし	82	42%	14	27%	33	50%	14	38%	21	51%
自営業	23	12%	11	21%	5	8%	1	3%	6	15%
正社員	8	4%	3	6%	1	2%	3	8%	1	2%
臨時通年	16	8%	4	8%	3	5%	5	14%	4	10%
臨時季節	42	21%	10	19%	15	23%	13	35%	4	10%
その他	25	13%	10	19%	9	14%	1	3%	5	12%
未回答	70	-	19	-	13	-	18	-	20	-
計	266	100%	71	100%	79	100%	55	100%	61	100%

問11 今後の所得確保についてどのように考えていますか。(2つ選んでください。)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
現在のままでよい	135	34%	32	34%	53	41%	23	27%	27	29%
規模拡大で確保	32	8%	4	4%	3	2%	11	13%	14	15%
集約作物で確保	71	18%	11	12%	18	14%	20	24%	22	24%
兼業で確保	65	16%	14	15%	14	11%	20	24%	17	18%
副業で確保	54	14%	24	26%	21	16%	4	5%	5	5%
その他	42	11%	9	10%	20	16%	6	7%	7	8%
未回答	81	-	30	-	15	-	22	-	14	-
計	480	100%	124	100%	144	100%	106	100%	106	100%

問12 あなたの目標とする農畜産物の販売額はどのくらいですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
100万未満	32	17%	11	25%	15	24%	2	5%	4	9%
100万以上300万未満	29	15%	11	25%	11	18%	1	3%	6	13%
300万以上500万未満	27	14%	5	11%	7	11%	6	15%	9	20%
500万以上700万未満	8	4%	1	2%	6	10%	0	0%	1	2%
700万以上1000万未満	22	12%	5	11%	8	13%	5	13%	4	9%
1000万以上1500万未満	24	13%	3	7%	9	15%	6	15%	6	13%
1500万以上2000万未満	11	6%	2	5%	0	0%	6	15%	3	7%
2000万以上3000万未満	20	10%	2	5%	4	6%	6	15%	8	18%
3000万以上	18	9%	4	9%	2	3%	8	20%	4	9%
未回答	90	-	27	-	32	-	15	-	16	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問13 あなたは農畜産物の販売でどのくらい農協を利用していますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
利用してない	36	17%	13	28%	14	18%	3	7%	6	13%
30%未満	17	8%	6	13%	7	9%	1	2%	3	7%
30%～50%未満	10	5%	0	0%	6	8%	2	5%	2	4%
50%～70%未満	7	3%	3	6%	3	4%	1	2%	0	0%
70%～90%未満	29	14%	7	15%	14	18%	3	7%	5	11%
ほとんど全部	114	54%	18	38%	33	43%	33	77%	30	65%
未回答	68	-	24	-	17	-	12	-	15	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問14 (1)あなたは農業簿記をつけていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
つけている	74	31%	12	22%	24	29%	18	42%	20	37%
つけていない	162	69%	43	78%	60	71%	25	58%	34	63%
未回答	44	-	16	-	10	-	11	-	7	-
計	280	100%	71	100%	94	100%	54	100%	61	100%

(2)簿記をつけていない理由を教えてください。((1)で つけていないと答えた方)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
知識がない	39	23%	6	15%	16	24%	6	24%	11	31%
時間がない	24	14%	2	5%	12	18%	4	16%	6	17%
利用価値が少ない	32	19%	10	25%	12	18%	5	20%	5	14%
赤字でつける気にならない	12	7%	3	8%	2	3%	3	12%	4	11%
継続的につけるのは大変	31	19%	8	20%	15	23%	4	16%	4	11%
その他	28	17%	11	28%	9	14%	3	12%	5	14%
未回答	44	-	3	-	3	-	12	-	26	-
計	210	100%	43	100%	69	100%	37	100%	61	100%

問15 あなたの借入金はどのくらいありますか。(農協の組勸以外の短期・長期の残額の合計)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
ない	126	55%	36	67%	59	72%	12	28%	19	37%
300万未満	22	10%	5	9%	3	4%	5	12%	9	17%
300万以上500万未満	20	9%	1	2%	6	7%	3	7%	10	19%
500万以上1000万未満	18	8%	5	9%	3	4%	6	14%	4	8%
1000万以上1500万未満	17	7%	2	4%	4	5%	6	14%	5	10%
1500万以上2000万未満	9	4%	1	2%	3	4%	3	7%	2	4%
2000万以上3000万未満	9	4%	1	2%	2	2%	4	9%	2	4%
3000万以上5000万未満	5	2%	0	0%	1	1%	3	7%	1	2%
5000万以上	5	2%	3	6%	1	1%	1	2%	0	0%
未回答	50	-	17	-	12	-	12	-	9	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%



[ .農業経営について]

「なし・未回答」を除いてパーセンテージを出しています。

問16 (1)水田の面積  
所有している水田面積

なし・未回答

2ha未満	31	15%
2ha～4ha未満	49	24%
4ha～6ha未満	44	21%
6ha～8ha未満	33	16%
8ha～10ha未満	21	10%
10ha～12ha未満	3	1%
12ha～14ha未満	8	4%
14ha～16ha未満	9	4%
16ha～18ha未満	6	3%
18ha～20ha未満	2	1%
20ha以上	0	0%
計	276	100%

市全体	70	-
なし・未回答	31	15%
2ha未満	49	24%
4ha～6ha未満	44	21%
6ha～8ha未満	33	16%
8ha～10ha未満	21	10%
10ha～12ha未満	3	1%
12ha～14ha未満	8	4%
14ha～16ha未満	9	4%
16ha～18ha未満	6	3%
18ha～20ha未満	2	1%
20ha以上	0	0%
計	276	100%

花畔	45	-
なし・未回答	10	38%
2ha未満	6	23%
4ha～6ha未満	2	8%
6ha～8ha未満	4	15%
8ha～10ha未満	1	4%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	1	4%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	1	4%
18ha～20ha未満	1	4%
20ha以上	0	0%
計	71	100%

生振	18	-
なし・未回答	6	8%
2ha未満	25	33%
4ha～6ha未満	23	30%
6ha～8ha未満	11	14%
8ha～10ha未満	9	12%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	1	1%
14ha～16ha未満	1	1%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	94	100%

北生振	2	-
なし・未回答	2	4%
2ha未満	3	6%
4ha～6ha未満	7	15%
6ha～8ha未満	11	23%
8ha～10ha未満	9	19%
10ha～12ha未満	1	2%
12ha～14ha未満	5	10%
14ha～16ha未満	8	17%
16ha～18ha未満	1	2%
18ha～20ha未満	1	2%
20ha以上	0	0%
計	50	100%

高岡	5	-
なし・未回答	13	23%
2ha未満	15	27%
4ha～6ha未満	12	21%
6ha～8ha未満	7	13%
8ha～10ha未満	2	4%
10ha～12ha未満	2	4%
12ha～14ha未満	1	2%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	4	7%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	61	100%

そのうち貸している水田面積

なし・未回答

2ha未満	7	23%
2ha～4ha未満	13	43%
4ha～6ha未満	5	17%
6ha～8ha未満	4	13%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	281	103%

市全体	251	-
なし・未回答	7	23%
2ha未満	13	43%
4ha～6ha未満	5	17%
6ha～8ha未満	4	13%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	281	103%

花畔	64	-
なし・未回答	1	14%
2ha未満	3	43%
4ha～6ha未満	1	14%
6ha～8ha未満	1	14%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	1	14%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	71	100%

生振	85	-
なし・未回答	3	33%
2ha未満	3	33%
4ha～6ha未満	3	33%
6ha～8ha未満	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	94	100%

北生振	49	-
なし・未回答	1	17%
2ha未満	2	33%
4ha～6ha未満	1	17%
6ha～8ha未満	2	33%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	55	100%

高岡	53	-
なし・未回答	2	25%
2ha未満	5	63%
4ha～6ha未満	0	0%
6ha～8ha未満	1	13%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	61	100%

借りている水田面積

なし・未回答

2ha未満	18	39%
2ha～4ha未満	11	24%
4ha～6ha未満	9	20%
6ha～8ha未満	3	7%
8ha～10ha未満	2	4%
10ha～12ha未満	3	7%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	281	100%

市全体	235	-
なし・未回答	18	39%
2ha未満	11	24%
4ha～6ha未満	9	20%
6ha～8ha未満	3	7%
8ha～10ha未満	2	4%
10ha～12ha未満	3	7%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	281	100%

花畔	66	-
なし・未回答	3	60%
2ha未満	2	40%
4ha～6ha未満	0	0%
6ha～8ha未満	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	71	100%

生振	80	-
なし・未回答	7	50%
2ha未満	4	29%
4ha～6ha未満	2	14%
6ha～8ha未満	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%
10ha～12ha未満	1	7%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	94	100%

北生振	42	-
なし・未回答	4	31%
2ha未満	1	8%
4ha～6ha未満	3	23%
6ha～8ha未満	3	23%
8ha～10ha未満	1	8%
10ha～12ha未満	1	8%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	55	100%

高岡	47	-
なし・未回答	4	29%
2ha未満	4	29%
4ha～6ha未満	4	29%
6ha～8ha未満	0	0%
8ha～10ha未満	1	7%
10ha～12ha未満	1	7%
12ha～14ha未満	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	0	0%
計	61	100%

水田のうち水稲作付面積

なし・未回答  
2ha未満  
2ha～4ha未満  
4ha～6ha未満  
6ha～8ha未満  
8ha～10ha未満  
10ha～12ha未満  
12ha～14ha未満  
14ha～16ha未満  
16ha～18ha未満  
18ha～20ha未満  
20ha以上  
計

市全体	
190	-
24	26%
17	19%
12	13%
16	18%
10	11%
6	7%
3	3%
1	1%
2	2%
0	0%
0	0%
281	100%

花畔	
61	-
5	50%
1	10%
0	0%
1	10%
0	0%
1	10%
0	0%
0	0%
1	10%
0	0%
0	0%
71	100%

生振	
70	-
6	25%
8	33%
4	17%
4	17%
2	8%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
94	100%

北生振	
24	-
3	10%
2	6%
6	19%
9	29%
5	16%
2	6%
2	6%
1	3%
1	3%
0	0%
0	0%
55	100%

高岡	
35	-
10	38%
6	23%
2	8%
2	8%
2	8%
4	15%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
61	100%

水田のうち転作面積

なし・未回答  
2ha未満  
2ha～4ha未満  
4ha～6ha未満  
6ha～8ha未満  
8ha～10ha未満  
10ha～12ha未満  
12ha～14ha未満  
14ha～16ha未満  
16ha～18ha未満  
18ha～20ha未満  
20ha以上  
計

市全体	
140	-
42	30%
48	34%
26	18%
12	9%
10	7%
1	1%
0	0%
1	1%
0	0%
0	0%
1	1%
0	0%
1	1%
281	100%

花畔	
57	-
7	50%
5	36%
1	7%
1	7%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
71	100%

生振	
30	-
12	19%
23	36%
15	23%
6	9%
6	9%
1	2%
0	0%
0	0%
1	2%
0	0%
0	0%
0	0%
94	100%

北生振	
21	-
13	38%
10	29%
4	12%
3	9%
4	12%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
55	100%

高岡	
32	-
10	34%
10	34%
6	21%
2	7%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
61	100%

(2) 普通畑の面積  
所有している普通畑面積

なし・未回答  
2ha未満  
2ha～4ha未満  
4ha～6ha未満  
6ha～8ha未満  
8ha～10ha未満  
10ha～12ha未満  
12ha～14ha未満  
14ha～16ha未満  
16ha～18ha未満  
18ha～20ha未満  
20ha以上  
計

市全体	
99	-
110	60%
30	16%
17	9%
12	7%
6	3%
3	2%
4	2%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
281	100%

花畔	
27	-
30	68%
6	14%
3	7%
2	5%
1	2%
0	0%
2	5%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
71	100%

生振	
37	-
50	88%
6	11%
1	2%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
94	100%

北生振	
22	-
20	61%
5	15%
2	6%
2	6%
2	6%
2	6%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
55	100%

高岡	
13	-
10	21%
13	27%
11	23%
8	17%
3	6%
1	2%
2	4%
0	0%
0	0%
0	0%
61	100%

そのうち貸している普通畑面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	250	-	55	-	92	-	51	-	52	-
2ha未満	16	52%	12	75%	1	50%	2	50%	1	11%
2ha～4ha未満	9	29%	1	6%	1	50%	2	50%	5	56%
4ha～6ha未満	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	22%
6ha～8ha未満	2	6%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	1	3%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	11%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

借りている普通畑面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	229	-	60	-	77	-	46	-	46	-
2ha未満	24	46%	9	82%	8	47%	2	22%	5	33%
2ha～4ha未満	12	23%	1	9%	3	18%	3	33%	5	33%
4ha～6ha未満	9	17%	0	0%	4	24%	2	22%	3	20%
6ha～8ha未満	3	6%	0	0%	2	12%	0	0%	1	7%
8ha～10ha未満	2	4%	0	0%	0	0%	1	11%	1	7%
10ha～12ha未満	1	2%	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	2%	0	0%	0	0%	1	11%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

普通畑の作付面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	159	-	41	-	51	-	36	-	31	-
2ha未満	75	61%	24	80%	33	77%	9	47%	9	30%
2ha～4ha未満	18	15%	4	13%	5	12%	4	21%	5	17%
4ha～6ha未満	10	8%	0	0%	3	7%	1	5%	6	20%
6ha～8ha未満	8	7%	0	0%	2	5%	3	16%	3	10%
8ha～10ha未満	4	3%	0	0%	0	0%	1	5%	3	10%
10ha～12ha未満	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	3	10%
12ha～14ha未満	3	2%	2	7%	0	0%	0	0%	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	1%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(3) 牧草地・飼料畑の面積(放牧地・採草放牧兼用地を含む)  
 所有している牧草地・飼料畑面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	243	-	59	-	73	-	52	-	59	-
2ha未満	20	53%	7	58%	8	38%	3	100%	2	100%
2ha～4ha未満	12	32%	4	33%	8	38%	0	0%	0	0%
4ha～6ha未満	2	5%	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	1	3%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	1	3%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	1	3%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	1	3%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

そのうち貸している牧草地・飼料畑面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	274	-	67	-	92	-	54	-	61	-
2ha未満	3	43%	1	25%	1	50%	1	100%	0	0%
2ha～4ha未満	3	43%	2	50%	1	50%	0	0%	0	0%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	1	14%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	0%

借りている牧草地・飼料畑面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	272	-	70	-	87	-	54	-	61	-
2ha未満	4	44%	1	100%	2	29%	1	100%	0	0%
2ha～4ha未満	3	33%	0	0%	3	43%	0	0%	0	0%
4ha～6ha未満	2	22%	0	0%	2	29%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	0%

牧草地・飼料畑の作付面積

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	260	-	67	-	79	-	53	-	61	-
2ha未満	15	71%	4	100%	9	60%	2	100%	0	0%
2ha～4ha未満	4	19%	0	0%	4	27%	0	0%	0	0%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	1	5%	0	0%	1	7%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	1	5%	0	0%	1	7%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	0%

(4) その他

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
なし・未回答	261	-	59	-	89	-	54	-	59	-
2ha未満	8	40%	6	50%	1	20%	0	0%	1	50%
2ha～4ha未満	8	40%	4	33%	2	40%	1	100%	1	50%
4ha～6ha未満	1	5%	0	0%	1	20%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	1	5%	0	0%	1	20%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	1	5%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	5%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問17 あなたの農業経営についてどのように考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
拡大したい	23	10%	4	7%	5	6%	10	22%	4	8%
現状維持	152	64%	35	64%	57	67%	22	49%	38	72%
縮小したい	19	8%	5	9%	5	6%	4	9%	5	9%
やめたい	44	18%	11	20%	18	21%	9	20%	6	11%
未回答	43	-	16	-	9	-	10	-	8	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

問18 規模拡大したい方におたずねします。

(1) 拡大したい面積はどのくらいですか。(1haは1町)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
1ha未満	2	9%	1	25%	1	25%	0	0%	0	0%
1ha～2ha未満	4	18%	1	25%	0	0%	1	10%	2	50%
2ha～3ha未満	4	18%	1	25%	1	25%	2	20%	0	0%
3ha～4ha未満	3	14%	0	0%	0	0%	2	20%	1	25%
4ha～5ha未満	3	14%	1	25%	1	25%	1	10%	0	0%
5ha～7.5ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7.5ha～10ha未満	1	5%	0	0%	0	0%	1	10%	0	0%
10ha以上	5	23%	0	0%	1	25%	3	30%	1	25%
未回答	36	-	12	-	7	-	9	-	8	-
計	58	100%	16	100%	11	100%	19	100%	12	100%

(2) 規模拡大はどのような方法でしますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
購入	8	35%	2	50%	1	20%	3	30%	2	50%
借りる	9	39%	1	25%	3	60%	4	40%	1	25%
購入 + 借りる	6	26%	1	25%	1	20%	3	30%	1	25%
作業受託	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	31	-	9	-	5	-	9	-	8	-
計	54	100%	13	100%	10	100%	19	100%	12	100%

(3) 規模拡大の利用はどのようにしますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
稲作	10	48%	3	75%	2	40%	5	50%	0	0%
畑	11	52%	1	25%	3	60%	5	50%	2	100%
採草放牧地	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	36	-	12	-	5	-	9	-	10	-
計	57	100%	16	100%	10	100%	19	100%	12	100%

問19 縮小したい、農業をやめたい方におたずねします。

(1) 縮小したい、農業をやめたい理由はなんですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
後継者がいない	42	56%	8	53%	24	75%	4	40%	6	33%
労働力不足	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
収入が不安定	4	5%	0	0%	2	6%	0	0%	2	11%
毎年赤字である	3	4%	1	7%	0	0%	0	0%	2	11%
農業の将来に不安がある	8	11%	1	7%	1	3%	3	30%	3	17%
健康上の都合	10	13%	4	27%	4	13%	2	20%	0	0%
その他	8	11%	1	7%	1	3%	1	10%	5	28%
未回答	12	-	2	-	1	-	3	-	6	-
計	87	100%	17	100%	33	100%	13	100%	24	100%

(2) 耕作している農地をどうしますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
売却	40	52%	9	47%	23	72%	5	45%	3	20%
貸付	15	19%	3	16%	1	3%	6	55%	5	33%
借地の返却	2	3%	0	0%	1	3%	0	0%	1	7%
耕作委託	7	9%	1	5%	4	13%	0	0%	2	13%
市民農園等に利用	6	8%	2	11%	2	6%	0	0%	2	13%
その他	7	9%	4	21%	1	3%	0	0%	2	13%
未回答	13	-	2	-	2	-	2	-	7	-
計	90	100%	21	100%	34	100%	13	100%	22	100%

(3) 縮小、又はやめたい経営面積はどのくらいですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
1ha未満	8	12%	6	32%	1	4%	0	0%	1	8%
1ha～2ha未満	10	14%	7	37%	2	7%	0	0%	1	8%
2ha～3ha未満	8	12%	0	0%	3	11%	0	0%	5	38%
3ha～4ha未満	7	10%	5	26%	1	4%	0	0%	1	8%
4ha～5ha未満	10	14%	1	5%	5	19%	3	30%	1	8%
5ha～7.5ha未満	18	26%	0	0%	12	44%	4	40%	2	15%
7.5ha～10ha未満	6	9%	0	0%	2	7%	3	30%	1	8%
10ha以上	2	3%	0	0%	1	4%	0	0%	1	8%
未回答	31	-	6	-	12	-	6	-	7	-
計	100	100%	25	100%	39	100%	16	100%	20	100%

(4)縮小、やめたい土地の利用はなんですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
稲作	31	55%	5	38%	17	65%	7	88%	2	22%
畑	9	16%	3	23%	1	4%	0	0%	5	56%
採草放牧地	5	9%	3	23%	1	4%	1	13%	0	0%
その他	11	20%	2	15%	7	27%	0	0%	2	22%
未回答	28	-	5	-	7	-	5	-	11	-
計	84	100%	18	100%	33	100%	13	100%	20	100%

問20 あなたが所有している農業機械等についてどのように考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
経営面積的に妥当	99	52%	31	74%	21	31%	22	54%	25	61%
過剰投資だがやむを得ない	49	26%	6	14%	24	36%	9	22%	10	24%
過剰投資のため 共同利用したいが難しい	14	7%	1	2%	6	9%	5	12%	2	5%
機械化を推進する必要がある 面積が少ないので	8	4%	2	5%	2	3%	3	7%	1	2%
他の人に頼んでいる	21	11%	2	5%	14	21%	2	5%	3	7%
未回答	84	-	29	-	21	-	14	-	20	-
計	275	100%	71	100%	88	100%	55	100%	61	100%

問21農地の分散について

(1)あなたの農地は分散していますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
かなり分散している	45	23%	9	21%	10	14%	10	24%	16	38%
少し分散している	74	37%	22	51%	18	25%	19	45%	15	36%
あまり分散していない	18	9%	0	0%	9	12%	7	17%	2	5%
ほとんど分散していない	63	32%	12	28%	36	49%	6	14%	9	21%
未回答	80	-	27	-	21	-	13	-	19	-
計	280	100%	70	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(2)あなたは、農地の団地化・利用集積についてどのように考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
地域的な取組みをすべき (交換分合等)	30	18%	4	10%	8	15%	11	28%	7	21%
地域的には難しいので 個々で取組まざるを得ない	24	14%	9	23%	5	9%	2	5%	8	24%
必要と思うが難しい	59	36%	11	28%	21	39%	18	46%	9	26%
個々の取組みで十分	20	12%	5	13%	9	17%	4	10%	2	6%
必要ない	33	20%	10	26%	11	20%	4	10%	8	24%
未回答	115	-	32	-	40	-	16	-	27	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(3) 農地の団地化・利用集積を地域で取り組むのが難しいのは、何が原因とと思いますか。

(2つ選んでください)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
土地条件や圃場間の格差	82	27%	14	25%	23	20%	23	32%	22	35%
農業者の意識が低い	57	19%	7	12%	21	18%	13	18%	16	26%
財産としての所有意識が強い	35	11%	6	11%	16	14%	9	12%	4	6%
地主の意向が強い	18	6%	4	7%	7	6%	4	5%	3	5%
新たな費用負担が出るので	29	9%	5	9%	12	10%	6	8%	6	10%
農地転用の期待があるため	10	3%	6	11%	3	3%	1	1%	0	0%
土地利用計画が明確になっていないので	23	7%	4	7%	14	12%	4	5%	1	2%
行政や農協などの推進体制ができていないので	50	16%	7	12%	20	17%	13	18%	10	16%
その他	4	1%	4	7%	0	0%	0	0%	0	0%
計	308	100%	57	100%	116	100%	73	100%	62	100%

問22 あなたは、法人化や法人経営の参加についてどのように考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
既に法人化している	4	2%	1	3%	3	5%	0	0%	0	0%
法人化が必要だと思う	31	18%	6	17%	8	14%	6	15%	11	26%
法人化の必要ない	76	43%	21	60%	25	43%	15	38%	15	36%
法人化が必要だが難しい	64	37%	7	20%	22	38%	19	48%	16	38%
未回答	105	-	36	-	35	-	15	-	19	-
計	280	100%	71	100%	93	100%	55	100%	61	100%

問23 農業生産組織について

(1) 農業生産組織の必要性について教えてください。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
地域ぐるみの組織化を積極的に進めるべき	25	13%	3	8%	5	7%	8	20%	9	21%
集団化のメリットがあるものは組織化すべき	76	40%	14	36%	25	37%	20	49%	17	40%
家族経営が基本なので組織化の必要はない	36	19%	11	28%	11	16%	4	10%	10	24%
わからない	53	28%	11	28%	27	40%	9	22%	6	14%
未回答	90	-	32	-	25	-	14	-	19	-
計	280	100%	71	100%	93	100%	55	100%	61	100%

(2) 組織化は必要ないと回答した方は、その理由はなんですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
人間関係が煩わしい	15	27%	1	10%	7	25%	3	60%	4	31%
利害調整が大変	14	25%	2	20%	9	32%	0	0%	3	23%
機械等を自由に使えない	5	9%	0	0%	1	4%	1	20%	3	23%
集団化のメリットがない	14	25%	1	10%	10	36%	1	20%	2	15%
その他	8	14%	6	60%	1	4%	0	0%	1	8%
未回答	165	-	36	-	66	-	15	-	48	-
計	221	100%	46	100%	94	100%	20	100%	61	100%



[ .グリーンサポーター事業・農作業受委託]

問24 雇用労働について

(1)あなたは、雇用労働力を使ったことがありますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
ある	108 55%	28 70%	28 41%	22 55%	30 65%
ない	87 45%	12 30%	41 59%	18 45%	16 35%
未回答	85 -	31 -	25 -	15 -	14 -
計	280 100%	71 100%	94 100%	55 100%	60 100%

(2)あなたは、雇用労働力で困ったことはありませんか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
人数確保が出来ない	17 13%	3 11%	2 4%	7 27%	5 17%
賃金が高い	31 23%	5 18%	14 29%	5 19%	7 23%
探すのがたいへん	40 30%	8 29%	17 35%	8 31%	7 23%
その他	45 34%	12 43%	16 33%	6 23%	11 37%
未回答	148 -	43 -	45 -	29 -	31 -
計	281 100%	71 100%	94 100%	55 100%	61 100%

(3)石狩市農業総合支援センターで実施しているグリーンサポーター事業を利用したことがありますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
利用している	46 28%	8 22%	8 15%	13 35%	17 43%
利用する必要がない	70 42%	20 56%	31 57%	12 32%	7 18%
利用したいがまだ利用していない	51 31%	8 22%	15 28%	12 32%	16 40%
未回答	113 -	34 -	40 -	18 -	21 -
計	280 100%	70 100%	94 100%	55 100%	61 100%

問25 農作業の受委託について

(1)あなたは、農作業を受託していますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
している	37 22%	4 12%	14 23%	9 24%	10 25%
していない	133 78%	29 88%	46 77%	28 76%	30 75%
未回答	111 -	38 -	34 -	18 -	21 -
計	281 100%	71 100%	94 100%	55 100%	61 100%

(2)受託の作業内容と面積はどのくらいですか。((1)で 受託していると答えた方)

水稻 (ア) 育苗

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
2ha未満	32 84%	0 0%	3 60%	0 0%	29 94%
2ha～4ha未満	2 5%	1 100%	1 20%	0 0%	0 0%
4ha～6ha未満	1 3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 3%
6ha～8ha未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
8ha～10ha未満	1 3%	0 0%	0 0%	1 100%	0 0%
10ha～12ha未満	1 3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 3%
12ha～14ha未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
14ha～16ha未満	1 3%	0 0%	1 20%	0 0%	0 0%
16ha～18ha未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
18ha～20ha未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
20ha以上	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
計	38 100%	1 100%	5 100%	1 100%	31 100%

水稻 (イ) 耕起・代かき

2ha未満	32	80%
2ha～4ha未満	1	3%
4ha～6ha未満	2	5%
6ha～8ha未満	1	3%
8ha～10ha未満	1	3%
10ha～12ha未満	1	3%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	40	100%

市全体	
32	80%
1	3%
2	5%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
40	100%

花畔	
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%

生振	
2	67%
1	33%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
3	100%

北生振	
0	0%
0	0%
1	33%
1	33%
1	33%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
3	100%

高岡	
30	91%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
33	100%

水稻 (ウ) 田植え

2ha未満	31	82%
2ha～4ha未満	1	3%
4ha～6ha未満	1	3%
6ha～8ha未満	1	3%
8ha～10ha未満	1	3%
10ha～12ha未満	1	3%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	38	100%

市全体	
31	82%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
38	100%

花畔	
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%

生振	
3	75%
1	25%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
4	100%

北生振	
0	0%
0	0%
0	0%
1	50%
1	50%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
2	100%

高岡	
28	90%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
31	100%

水稻 (工) 防除

2ha未満	29	76%
2ha～4ha未満	1	3%
4ha～6ha未満	3	8%
6ha～8ha未満	1	3%
8ha～10ha未満	1	3%
10ha～12ha未満	1	3%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	38	100%

市全体	
29	76%
1	3%
3	8%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
38	100%

花畔	
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%

生振	
1	50%
1	50%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
2	100%

北生振	
0	0%
0	0%
2	50%
1	25%
1	25%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
4	100%

高岡	
28	90%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
31	100%

水稻 (才) 刈取

2ha未満	31	79%
2ha～4ha未満	2	5%
4ha～6ha未満	1	3%
6ha～8ha未満	1	3%
8ha～10ha未満	1	3%
10ha～12ha未満	1	3%
12ha～14ha未満	1	3%
14ha～16ha未満	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%
20ha以上	1	3%
計	39	100%

市全体	
31	79%
2	5%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
39	100%

花畔	
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	100%

生振	
2	67%
1	33%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
3	100%

北生振	
0	0%
1	25%
0	0%
1	25%
1	25%
1	25%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
4	100%

高岡	
29	94%
0	0%
1	3%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3%
31	100%

水稻 (カ)乾燥・調整

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	30	75%	0	0%	3	75%	0	0%	27	87%
2ha～4ha未満	3	8%	1	50%	1	25%	0	0%	1	3%
4ha～6ha未満	2	5%	0	0%	0	0%	1	33%	1	3%
6ha～8ha未満	1	3%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
8ha～10ha未満	1	3%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
10ha～12ha未満	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
12ha～14ha未満	1	3%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
計	40	100%	2	100%	4	100%	3	100%	31	100%

畑作(転作田を含む) (ア)耕起・調地

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	28	90%	0	0%	2	18%	0	0%	28	90%
2ha～4ha未満	0	0%	0	0%	3	27%	1	33%	0	0%
4ha～6ha未満	1	3%	1	100%	0	0%	0	0%	1	3%
6ha～8ha未満	0	0%	0	0%	2	18%	1	33%	0	0%
8ha～10ha未満	1	3%	0	0%	2	18%	1	33%	1	3%
10ha～12ha未満	1	3%	0	0%	1	9%	0	0%	1	3%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	1	9%	0	0%	0	0%
計	31	100%	1	100%	11	100%	3	100%	31	100%

畑作(転作田を含む) (イ)播種・育苗

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	32	70%	1	100%	2	20%	1	25%	28	90%
2ha～4ha未満	3	7%	0	0%	3	30%	0	0%	0	0%
4ha～6ha未満	2	4%	0	0%	0	0%	1	25%	1	3%
6ha～8ha未満	3	7%	0	0%	1	10%	2	50%	0	0%
8ha～10ha未満	3	7%	0	0%	2	20%	0	0%	1	3%
10ha～12ha未満	2	4%	0	0%	1	10%	0	0%	1	3%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	1	2%	0	0%	1	10%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	46	100%	1	100%	10	100%	4	100%	31	100%

畑作(転作田を含む) (ウ)防除

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	9	39%	0	0%	1	11%	0	0%	8	80%
2ha～4ha未満	3	13%	0	0%	2	22%	1	25%	0	0%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	4	17%	0	0%	1	11%	3	75%	0	0%
8ha～10ha未満	3	13%	0	0%	2	22%	0	0%	1	10%
10ha～12ha未満	2	9%	0	0%	1	11%	0	0%	1	10%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	1	4%	0	0%	1	11%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	4%	0	0%	1	11%	0	0%	0	0%
計	23	100%	0	0%	9	100%	4	100%	10	100%

畑作(転作田を含む) (工)収穫

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	12	35%	2	67%	2	17%	1	13%	7	64%
2ha～4ha未満	5	15%	1	33%	3	25%	1	13%	0	0%
4ha～6ha未満	4	12%	0	0%	1	8%	1	13%	2	18%
6ha～8ha未満	6	18%	0	0%	3	25%	3	38%	0	0%
8ha～10ha未満	2	6%	0	0%	1	8%	0	0%	1	9%
10ha～12ha未満	3	9%	0	0%	1	8%	1	13%	1	9%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	1	3%	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	3%	0	0%	0	0%	1	13%	0	0%
計	34	100%	3	100%	12	100%	8	100%	11	100%

畑作(転作田を含む) (オ)乾燥・調整・出荷

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	9	36%	1	100%	2	20%	0	0%	6	55%
2ha～4ha未満	3	12%	0	0%	2	20%	1	33%	0	0%
4ha～6ha未満	6	24%	0	0%	2	20%	1	33%	3	27%
6ha～8ha未満	2	8%	0	0%	1	10%	1	33%	0	0%
8ha～10ha未満	2	8%	0	0%	1	10%	0	0%	1	9%
10ha～12ha未満	2	8%	0	0%	1	10%	0	0%	1	9%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	1	4%	0	0%	1	10%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	25	100%	1	100%	10	100%	3	100%	11	100%

(3) 農作業受託を今後どのようにしたいと考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
現状のままでよい	50	78%	9	82%	17	74%	13	81%	11	79%
受託を増やしたい	11	17%	1	9%	5	22%	2	13%	3	21%
受託を減らしたい	1	2%	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%
受託をやめたい	2	3%	0	0%	1	4%	1	6%	0	0%
未回答	127	-	60	-	0	-	39	-	28	-
計	191	100%	71	100%	23	100%	55	100%	42	100%

(4) あなたは、農作業の委託をしていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
している	44	40%	6	40%	17	40%	13	48%	8	32%
していない	66	60%	9	60%	26	60%	14	52%	17	68%
未回答	103	-	56	-	0	-	28	-	19	-
計	213	100%	71	100%	43	100%	55	100%	44	100%

(5) 委託の作業内容と面積はどのくらいですか。

水稻 (ア) 育苗

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	1	17%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
2ha～4ha未満	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	2	67%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	2	33%	0	0%	0	0%	2	67%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	1	33%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	6	100%	0	0%	0	0%	3	100%	3	100%

水稻 (イ) 耕起・代かき

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	2	29%	0	0%	0	0%	1	33%	1	25%
2ha～4ha未満	2	29%	0	0%	0	0%	0	0%	2	50%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	2	29%	0	0%	0	0%	2	67%	0	0%
8ha～10ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10ha～12ha未満	1	14%	0	0%	0	0%	0	0%	1	25%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	7	100%	0	0%	0	0%	3	100%	4	100%

水稻 (ウ) 田植え

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2ha～4ha未満	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	2	67%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	2	33%	0	0%	0	0%	2	67%	0	0%
8ha～10ha未満	1	17%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
10ha～12ha未満	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	1	33%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	6	100%	0	0%	0	0%	3	100%	3	100%

水稻 (エ) 防除

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	1	13%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
2ha～4ha未満	1	13%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
4ha～6ha未満	2	25%	0	0%	0	0%	0	0%	2	40%
6ha～8ha未満	2	25%	0	0%	0	0%	2	67%	0	0%
8ha～10ha未満	1	13%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
10ha～12ha未満	1	13%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	8	100%	0	0%	0	0%	3	100%	5	100%

水稻 (才)刈取

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	5	33%	0	0%	2	100%	0	0%	3	38%
2ha～4ha未満	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%	2	25%
4ha～6ha未満	1	7%	0	0%	0	0%	0	0%	1	13%
6ha～8ha未満	2	13%	0	0%	0	0%	2	40%	0	0%
8ha～10ha未満	1	7%	0	0%	0	0%	1	20%	0	0%
10ha～12ha未満	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%	2	25%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	1	7%	0	0%	0	0%	1	20%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	7%	0	0%	0	0%	1	20%	0	0%
計	15	100%	0	0%	2	100%	5	100%	8	100%

水稻 (力)乾燥・調整

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	5	33%	1	50%	0	0%	0	0%	4	50%
2ha～4ha未満	4	27%	1	50%	1	100%	1	25%	1	13%
4ha～6ha未満	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%	2	25%
6ha～8ha未満	2	13%	0	0%	0	0%	2	50%	0	0%
8ha～10ha未満	1	7%	0	0%	0	0%	1	25%	0	0%
10ha～12ha未満	1	7%	0	0%	0	0%	0	0%	1	13%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	15	100%	2	100%	1	100%	4	100%	8	100%

畑作(転作田を含む) (ア)耕起・調地

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	3	23%	0	0%	3	60%	0	0%	0	0%
2ha～4ha未満	5	38%	0	0%	1	20%	1	33%	3	60%
4ha～6ha未満	1	8%	0	0%	1	20%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	1	8%	0	0%	0	0%	1	33%	0	0%
8ha～10ha未満	2	15%	0	0%	0	0%	1	33%	1	20%
10ha～12ha未満	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	13	100%	0	0%	5	100%	3	100%	5	100%

畑作(転作田を含む) (イ)播種・育苗

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	2	20%	0	0%	2	67%	0	0%	0	0%
2ha～4ha未満	4	40%	0	0%	1	33%	0	0%	3	60%
4ha～6ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6ha～8ha未満	1	10%	0	0%	0	0%	1	50%	0	0%
8ha～10ha未満	2	20%	0	0%	0	0%	1	50%	1	20%
10ha～12ha未満	1	10%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	10	100%	0	0%	3	100%	2	100%	5	100%

畑作(転作田を含む) (ウ)防除

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	2	15%	0	0%	2	50%	0	0%	0	0%
2ha～4ha未満	4	31%	0	0%	1	25%	1	25%	2	40%
4ha～6ha未満	2	15%	0	0%	1	25%	0	0%	1	20%
6ha～8ha未満	2	15%	0	0%	0	0%	2	50%	0	0%
8ha～10ha未満	2	15%	0	0%	0	0%	1	25%	1	20%
10ha～12ha未満	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	13	100%	0	0%	4	100%	4	100%	5	100%

畑作(転作田を含む) (エ)収穫

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	7	21%	1	100%	3	21%	2	22%	1	11%
2ha～4ha未満	8	24%	0	0%	3	21%	1	11%	4	44%
4ha～6ha未満	7	21%	0	0%	5	36%	1	11%	1	11%
6ha～8ha未満	4	12%	0	0%	2	14%	2	22%	0	0%
8ha～10ha未満	4	12%	0	0%	1	7%	2	22%	1	11%
10ha～12ha未満	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	22%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	3%	0	0%	0	0%	1	11%	0	0%
計	33	100%	1	100%	14	100%	9	100%	9	100%

畑作(転作田を含む) (オ)乾燥・調整・出荷

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
2ha未満	6	22%	1	100%	2	17%	2	29%	1	14%
2ha～4ha未満	5	19%	0	0%	3	25%	1	14%	1	14%
4ha～6ha未満	8	30%	0	0%	4	33%	1	14%	3	43%
6ha～8ha未満	1	4%	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%
8ha～10ha未満	5	19%	0	0%	2	17%	2	29%	1	14%
10ha～12ha未満	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	1	14%
12ha～14ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14ha～16ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16ha～18ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18ha～20ha未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20ha以上	1	4%	0	0%	0	0%	1	14%	0	0%
計	27	100%	1	100%	12	100%	7	100%	7	100%

(6) 農作業委託を今後どのようにしたいと考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
現状のままでよい	49	84%	8	89%	18	78%	13	87%	10	91%
委託を増やしたい	3	5%	1	11%	2	9%	0	0%	0	0%
委託を減らしたい	3	5%	0	0%	1	4%	1	7%	1	9%
委託をやめたい	3	5%	0	0%	2	9%	1	7%	0	0%
未回答	201	-	62	-	70	-	40	-	29	-
計	259	100%	71	100%	93	100%	55	100%	40	100%

[ .土づくり・基盤整備等]

問26 土づくりについて

(1)あなたは土づくりのためどんな事をしていますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
堆肥の投入	55 33%	23 56%	18 38%	4 11%	10 24%
有機質肥料の投入	28 17%	7 17%	8 17%	8 22%	5 12%
稲わらのすきこみ	18 11%	1 2%	3 6%	11 30%	3 7%
緑肥のすきこみ	28 17%	4 10%	9 19%	6 16%	9 22%
輪作体系の維持	16 10%	0 0%	2 4%	6 16%	8 20%
特になにもしていない	18 11%	6 15%	5 10%	2 5%	5 12%
その他	4 2%	0 0%	3 6%	0 0%	1 2%
未回答	114 -	30 -	46 -	18 -	20 -
計	281 100%	71 100%	94 100%	55 100%	61 100%

(2)堆肥はどのように確保していますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
自家で生産したものを使用	17 16%	4 12%	9 23%	3 27%	1 5%
畜産農家から購入	47 45%	20 59%	14 35%	5 45%	8 40%
畜産農家から稲わら等と交換	8 8%	0 0%	6 15%	0 0%	2 10%
農家以外から購入	22 21%	6 18%	9 23%	2 18%	5 25%
畜産農家から無償で確保	5 5%	2 6%	0 0%	1 9%	2 10%
その他	6 6%	2 6%	2 5%	0 0%	2 10%
未回答	175 -	37 -	53 -	44 -	41 -
計	280 100%	71 100%	93 100%	55 100%	61 100%

(3)堆肥は年間どのくらい使用しますか。

(トン/年)

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
なし	199 71%	42 59%	63 67%	50 91%	44 72%
5t未満	12 4%	5 7%	3 3%	1 2%	3 5%
5t以上10t未満	4 1%	0 0%	1 1%	0 0%	3 5%
10t以上20t未満	20 7%	7 10%	7 7%	4 7%	2 3%
20t以上30t未満	17 6%	5 7%	7 7%	0 0%	5 8%
30t以上40t未満	11 4%	4 6%	4 4%	0 0%	3 5%
40t以上50t未満	4 1%	4 6%	0 0%	0 0%	0 0%
50t以上60t未満	5 2%	1 1%	4 4%	0 0%	0 0%
60t以上80t未満	4 1%	1 1%	3 3%	0 0%	0 0%
80t以上100t未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
100t以上	5 2%	2 3%	2 2%	0 0%	1 2%
計	281 100%	71 100%	94 100%	55 100%	61 100%

(トン/10a)

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
なし	216 82%	55 77%	75 80%	52 95%	34 81%
1t未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
1t以上2t未満	5 2%	2 3%	1 1%	0 0%	2 5%
2t以上3t未満	20 8%	5 7%	11 12%	3 5%	1 2%
3t以上4t未満	9 3%	3 4%	3 3%	0 0%	3 7%
4t以上5t未満	4 2%	1 1%	2 2%	0 0%	1 2%
5t以上7t未満	4 2%	2 3%	2 2%	0 0%	0 0%
7t以上10t未満	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
10t以上20t未満	4 2%	3 4%	0 0%	0 0%	1 2%
20t以上	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
計	262 100%	71 100%	94 100%	55 100%	42 100%



(4)土づくりにかかる経費は年間いくらぐらいですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
経費はほとんどかからない	23	20%	4	12%	10	25%	5	20%	4	21%
20万円以下	63	54%	22	67%	22	55%	7	28%	12	63%
20万円～50万円未満	21	18%	3	9%	7	18%	10	40%	1	5%
50万円～100万円未満	8	7%	4	12%	0	0%	3	12%	1	5%
100万円以上	2	2%	0	0%	1	3%	0	0%	1	5%
未回答	164	-	38	-	54	-	30	-	42	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(5)堆肥を利用した効果はどうですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
地力が向上した	50	54%	21	70%	17	50%	3	33%	9	47%
作物の収量が上がった	16	17%	4	13%	9	26%	1	11%	2	11%
品質が向上した	10	11%	1	3%	5	15%	2	22%	2	11%
耐病性が向上した	5	5%	2	7%	0	0%	0	0%	3	16%
冷害に強くなった	3	3%	1	3%	1	3%	1	11%	0	0%
効果があまりない	4	4%	1	3%	1	3%	2	22%	0	0%
その他	4	4%	0	0%	1	3%	0	0%	3	16%
未回答	189	-	41	-	60	-	46	-	42	-
計	281	100%	71	100%	94	100%	55	100%	61	100%

(6)堆肥を使用しない方は、使用しない理由は何ですか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
効果がわからない	3	5%	1	14%	0	0%	1	4%	1	8%
管理に労力がかかる	18	29%	3	43%	5	29%	7	27%	3	23%
購入費用等経費がかかる	36	57%	1	14%	11	65%	15	58%	9	69%
その他	6	10%	2	29%	1	6%	3	12%	0	0%
未回答	215	-	64	-	75	-	29	-	47	-
計	278	100%	71	100%	92	100%	55	100%	60	100%

問27 基盤整備について

(1)今後の基盤整備についてどのように考えていますか。

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
必要ない	59	36%	22	56%	20	38%	7	19%	10	26%
必要なので実施したい	17	10%	3	8%	3	6%	6	17%	5	13%
助成措置があれば実施したい	37	22%	7	18%	6	12%	12	33%	12	31%
実施したいが費用負担が多くてできない	40	24%	3	8%	19	37%	9	25%	9	23%
わからない	13	8%	4	10%	4	8%	2	6%	3	8%
未回答	102	-	32	-	42	-	19	-	9	-
計	268	100%	71	100%	94	100%	55	100%	48	100%

(2)あなたは、今後どのような基盤整備を必要としていますか。(3つ以内で選んでください)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
畑地かんがい	11	4%	3	6%	3	3%	2	2%	3	4%
用水路	11	4%	2	4%	3	3%	4	5%	2	3%
排水路	50	17%	11	21%	24	26%	12	14%	3	4%
暗渠排水	62	21%	12	23%	18	20%	17	20%	15	21%
客土	37	12%	7	13%	9	10%	11	13%	10	14%
土壌改良	48	16%	4	8%	12	13%	16	19%	16	23%
心土破碎	26	9%	2	4%	11	12%	6	7%	7	10%
農道整備	11	4%	1	2%	2	2%	5	6%	3	4%
圃場の整理(大区画)	18	6%	3	6%	3	3%	8	9%	4	6%
防風林防風網	22	7%	4	8%	6	7%	5	6%	7	10%
その他	5	2%	3	6%	1	1%	0	0%	1	1%
計	301	100%	52	100%	92	100%	86	100%	71	100%

[ .地産地消・都市住民との交流]

問28 地元での農産物の販売について

(1)あなたの取り組みを教えてください。(複数回答)

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
農産物の即売会などで販売	29 22%	9 25%	7 15%	6 25%	7 30%
農協の直売所で農産物を販売	13 10%	2 6%	3 6%	4 17%	4 17%
自分で直売所を開設して農産物を販売	12 9%	3 8%	7 15%	1 4%	1 4%
Uパック等を利用し農産物を販売	18 14%	4 11%	4 9%	5 21%	5 22%
庭先販売	58 45%	18 50%	26 55%	8 33%	6 26%
計	130 100%	36 100%	47 100%	24 100%	23 100%

(2)地元での農産物の販売についてどのように思いますか。(複数回答)

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
個人の直売所で販売	16 9%	5 11%	4 8%	4 11%	3 8%
行政や農協がアンテナショップを設置して販売	46 27%	11 24%	13 26%	10 26%	12 32%
農産物以外に水産物等の地場産品を併せて販売	22 13%	9 20%	6 12%	2 5%	5 13%
生協や大型店に地場産コーナーを設置して販売	34 20%	6 13%	8 16%	9 24%	11 29%
消費者等との連携による販売	54 31%	15 33%	19 38%	13 34%	7 18%
計	172 100%	46 100%	50 100%	38 100%	38 100%

問29 都市住民との交流について

(1)あなたや家族の方の取り組みを教えてください。(複数回答)

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
観光農園	5 15%	3 50%	0 0%	1 7%	1 17%
市民農園	2 6%	1 17%	0 0%	0 0%	1 17%
農業体験の受け入れ	7 21%	1 17%	0 0%	3 21%	3 50%
消費者団体等の組織に入っている	6 18%	0 0%	3 38%	3 21%	0 0%
手づくり食品の会と連携	6 18%	0 0%	2 25%	4 29%	0 0%
仲間と加工品づくりを実施	8 24%	1 17%	3 38%	3 21%	1 17%
計	34 100%	6 100%	8 100%	14 100%	6 100%

(2)あなたや家族の方は都市との交流についてどのように考えていますか。

	市全体	花畔	生振	北生振	高岡
消費者との交流会を定期的に開催	27 29%	5 28%	7 27%	9 29%	6 33%
行政や農協が積極的に取組む	36 39%	6 33%	11 42%	10 32%	9 50%
女性部が積極的に取組む	6 6%	1 6%	2 8%	3 10%	0 0%
交流会等に積極的に参加したい	13 14%	3 17%	3 12%	6 19%	1 6%
農産物の加工品づくりを市民に普及したい	11 12%	3 17%	3 12%	3 10%	2 11%
計	93 100%	18 100%	26 100%	31 100%	18 100%

[ .行政の農業政策・農協の営農指導等]

問30 行政、市、農業委員会、普及センター等の農業政策について

(1)市等に何を望みますか。(3つ選んでください)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
農作業受委託システム	42	13%	7	12%	17	16%	11	12%	7	10%
農地流動化の推進	47	15%	11	19%	18	17%	11	12%	7	10%
担い手育成対策	30	9%	3	5%	10	10%	11	12%	6	8%
クリーン農業の推進	34	10%	8	14%	7	7%	9	10%	10	14%
経営の組織化・法人化	20	6%	3	5%	6	6%	6	7%	5	7%
土地基盤整備等	34	10%	4	7%	7	7%	14	16%	9	13%
農村の生活環境の整備	47	15%	9	15%	15	14%	10	11%	13	18%
消費者との交流促進	42	13%	9	15%	15	14%	10	11%	8	11%
農業関係機関・団体との連携	22	7%	3	5%	7	7%	7	8%	5	7%
その他(別紙)	6	2%	2	3%	2	2%	1	1%	1	1%
計	324	100%	59	100%	104	100%	90	100%	71	100%

(2)市の新たな農業振興計画に位置づけたいことがありますか。(別紙)

問31 農協の営農指導等について

農協に何を望みますか。(3つ選んでください)

	市全体		花畔		生振		北生振		高岡	
経営指導・経営分析	55	16%	11	13%	15	14%	14	16%	15	20%
技術指導	83	23%	14	17%	25	23%	25	29%	19	25%
販売対策	100	28%	28	34%	31	28%	20	23%	21	28%
生産組織の育成	33	9%	9	11%	9	8%	10	11%	5	7%
振興会・部会の活性化	26	7%	6	7%	9	8%	8	9%	3	4%
農家と職員の交流促進	47	13%	10	12%	20	18%	8	9%	9	12%
その他(別紙)	10	3%	4	5%	0	0%	2	2%	4	5%
計	354	100%	82	100%	109	100%	87	100%	76	100%

問32 石狩市の農業、農業者や関係機関・団体との連携などについてご意見、ご要望をお書きください。

(別紙)

## 農業者意向調査 別紙

### 問30(1) その他

- ・ 総合的土地利用システム(花畔)
- ・ 消費地に近い有利性を生かす新たな作物の開発(花畔)
- ・ 農振地区をはずしてほしい(生振)
- ・ JA合併を(北生振)
- ・ 特産品の研究(生振)
- ・ 情報の統一化(高岡)

### 問30(2) 市の新たな農業振興計画に位置づけたいこと

- ・ 市内農業者が生産した米、野菜を市内消費者へアピール(花畔)
- ・ 農用地振興、新規就農システムの確立、体験圃場、共同圃場、加工場の建設、販売システム作り(花畔)
- ・ 行政と農協の指導で輪作体系の確立(近所の永年牧草地 高級野菜へ)(花畔)
- ・ 女性方が取り組んでいる農産物の加工が今後の農業を良い方向に位置づけできるように、加工施設の建設を望みます。女性のパワーで農村を活性化させるために是非お願いします。(生振)
- ・ 市として産業別中の将来の農業に対する位置づけ(生振)
- ・ 地場産品をいかに多く地場消費させるかの取り組み(生振)
- ・ 農業団体、活力のある団体をつくって国に働きかける。(生振)
- ・ 期待もしない。(生振)
- ・ 営農者の減少(高齢化、後継者不足)に伴い、残る営農者の負担(受託作業増など)のバックアップ。(高岡)
- ・ 石狩市独自の特産品づくり(高岡)
- ・ 新規入植者受け入れ(北生振)
- ・ クリーン農業地帯としての育成、大消費地(札幌など)へ向けて生産物アピール。地場農産物の行政としてのアピール。農村地区の上下水道、道路排水路などの整備。(高岡)
- ・ 経済の流動化によって計画が計画倒になる。輸入等情報収集に取り組み世界の経済の流れを見極めが甘い中で計画倒しているので位置付けたいことはない。(高岡)
- ・ 前向きな農家の個性の引出し(高岡)
- ・ 土地改良(土作り)基盤整備等は現在の経済状態で無理です。農家同士(仲間)が集まり土地高度利用、輪作体系の充実を図り収穫量、品質の向上を図りたいと考えます。支援センターよろしく。(高岡)

### 問3 1 その他

- ・ 借入金の金利を下げて。(花畔)
- ・ 都市化、農協との合併、信用事業、税金対策の充実。(花畔)
- ・ 生産、加工、販売。(花畔)
- ・ 兼・副業農家に良いアドバイスができる。(花畔)
- ・ 北いしかりと合併するべき。肥料、農薬等に価格差がある。生産量低下の為に非やるべき。(北生振)
- ・ 職員を減らせ。(北生振)
- ・ 共計販売のみではなく、どんどん定額販売の斡旋など。(高岡)
- ・ すべてやるべき(高岡)
- ・ 内部異動が多く専門職員が育たない。そのため信用性が少ない。(高岡)
- ・ 農産物を高く売ってほしい。(高岡)

### 問3 2 意見・要望

- ・ 市内農業者の特に要望する事項について統一見解を求め、政府に(農林省)に働きかける機会を作ってほしい。(花畔)
- ・ 先進地の勉強会で作目を決めて取り組むこと(花畔)
- ・ 土地を貸すのは良いが長年貸すと戦後の農地解放のように戻らないのではないかと不安に思っている人もいる。(花畔)
- ・ 厳しい農業情勢のかなで後継者や新規就農者が魅力を持てる農業に取り組む。(花畔)
- ・ 70歳以上の者が酪農畑作を頑張っているものに幾分かの援助をするよう要望する。(花畔)
- ・ 年々農業者高齢化により地域に活力がなくなってきました。元気の出る諸政策を願います。(生振)
- ・ 市と農協の連携不足。これからの農家をどうするかの位置づけがない。(生振)
- ・ 石狩市の農政課、農協等が連携を密にした上で、これからの市の農業の方向性を農業振興計画の中に位置づけし進めてほしい。(生振)
- ・ 今後、農業経営を続けていくことができない理由としては、農産物価格の安定、農業後継者問題でどう考えていいのかわからないから。(生振)
- ・ 育苗、防除、収穫等の共同作業は受委託に入るのでしょうか。共同作業の部分のアンケートもあるべきでは。(北生振)
- ・ 石狩市内の農業団体(改良区等)の大同団結をすべきである。市とJA、土地改良区の英断を望む。(北生振)

- ・ 後継者のいない農家が多く、これからもっと農家の将来は暗いだろう。そういう土地を市、JAが中に入りうまく借入したりし、農業従事者がしやすいよう手助けしていく。地域産物を主に各農家が共同できるようにする。(北生振)
- ・ 担当する職員をころころ代えないでほしい。(高岡)
- ・ 石狩市農業総合センターには色々とお世話になっているが、このような機関の役割は大きいと思う。将来的には人員を増やし業務に幅をもたせてもらいたい。(高岡)
- ・ 関係機関・団体等の合理化(色々な団体がありすぎて現状で進んでいくと営農にも支障をきたす不安がある。)(高岡)
- ・ 諸外国からの農産物の輸入を減らすように政府に働きかけてほしい。日本の農産物の価格を守ってほしい。(高岡)
- ・ 情報交換。(高岡)

## 11 農業作文・小論文コンテスト

目的 一般消費者が農業についてどのように考えているか、どのようなあり方を望んでいるのかを把握し新しい農業振興計画に反映する。また、農業に目を向け、理解を深めるきっかけとする。

対象者 石狩市民（市外からの通勤・通学者も含む）

募集部門 作文 小学生の部  
中学生の部  
小論文 高校生の部  
大学・短大・専門学校生の部  
一般の部

字数制限 作文は1,500字以内、小論文は3,000字以内

募集期間 平成14年7月1日～7月31日

選考会 第3回石狩市新農業振興計画策定協議会（平成14年8月19日開催）にて実施

選考結果 (敬称略)

小学生の部	優秀賞	中島こゆき、佐々木瑞希
大学・短大・専門学校生の部	優秀賞	齋藤聡美、菅野亜希子
一般の部	最優秀賞	村上岑子
	優秀賞	二上朋子、吉田徳夫

中学生の部、高校生の部は応募なし

表彰式 石狩市農業まつり（平成14年8月25日開催）にて実施

## 12 「石狩市農業振興計画」の評価

### 「石狩市農業振興計画」の評価

平成14年5月

経 済 部 農 水 産 課



## 1 農業構造の指標・目標等との比較

(計画の目標年次は、平成13年なので平成12年のを参考とする。)

### (1) 農家戸数

農家戸数は、目標410戸に対して、391戸と19戸も下回り、依然として減少傾向が続いている。

農家戸数の減少の原因としては、農業従事者の高齢化、担い手の不足(農業後継者の不足)のほかに、農業所得の伸び悩みも考えられる。

### (2) 農業就業人口

農業就業人口は、目標660人に対して692人で32人多い。

しかし、年齢別就業人口をみると、平成2年の生産年齢層(16~64歳)は76.4%が平成12年では61.4%と減少し、逆に生産年齢を過ぎた65歳以上が同じく17.8%から38.6%と増加し高齢化が進んでいる。今後、就業人口が目標より減少することが予想される。

表1 石狩市農業振興計画との比較

区 分	現況(平成7年)	目標(平成13年) (A)	平成12年 (B)	増 減 (B - A)
農家戸数 (戸)	447	410	391	19
農業就業人口 (人)	774	660	692	32
農業粗生産額 (億円)	31	38	27	11
1戸当たり平均 農業所得 (万円)	358	700	350	350
耕地面積 (ha)	3,260	2,555	3,210	655

### (3) 農業粗生産額

農業粗生産額は、目標38億円に対して27億円と11億円の減少で目標額の3割近くも減少している。

特に、米と野菜が顕著であり、市場原理の導入や輸入農産物の増加による価格低迷が続いている。

#### (4) 農業所得

農家の一戸当たりの農業所得は、目標700万円以上に対して約350万円と半額で目標数値とは大きくかけ離れている。

平成8年の農業所得は3,579千円であり、平成12年においてもは3,496千円と全く伸びていない。経済環境の悪化と農産物価格の低迷が要因である。

#### (5) 耕地面積

耕地面積は、目標面積2,555ヘクタールに対して、3,210ヘクタールあり、655ヘクタール多い。平成7年の3,260ヘクタールと比べても大きな変動はなく現状維持しているといえる。

2,555ヘクタールは、「石狩市農業振興地域整備計画」の中で確保すべき農用地面積として位置づけている。

また、耕作放棄地は、農林業センサス(2000年)によると、田で約3ヘクタール(2戸)、畑11ヘクタール(14戸)の計14ヘクタール(16戸)ある。

## 2 指標・目標の評価

### (1) 指標・目標の設定

計画時(平成9年)の経済状況での設定としては、概ね妥当である。

### (2) 達成の有無

農家戸数は減少しているが、耕地面積はそんなに減少していないことから、一戸当たりの耕作面積は拡大傾向にある。

農業粗生産額、農業所得は、経済情勢、輸入野菜の増大による価格低迷による影響が大きく達成されていない。

## 3 石狩市農業振興計画の評価

### (1) 具体的な展開方向の評価

別添資料のとおり

### (2) 重点目標の設定

優先順位の明確化、事業を計画期間内に実施する項目と検討すべき項目の区別、予算の裏付け、役割分担の明確化などを検討して設定すべきである。

### (3) 事業効果

平成12年に「石狩市農業総合支援センター」を設置し、グリーンサポーター事業などに積極的に取り組み、農業者の経営にも巾が出来た。

また、土地改良事業に係る「ミニトマト100棟構想」実現のための指導・支

また、土地改良事業に係る「ミニトマト100棟構想」実現のための指導・支援によりミニトマト生産農家が増え複合化が進んだ。共同作業に係る機械購入に対する助成でコストの低減や労働条件の改善が図られたなど、農業者からも評価はされ、一定の効果はあった。

しかし、担い手の確保、経営の体質強化、販路の拡大など個別の施策についての取り組みが不十分なため効果が出なかったものも多い。その理由としては、計画に対する認識が不足していたため、農業者への意識づけができてない、関係機関・団体の連携が不足、更に進行管理も出来なかったことなどが挙げられる。

#### 4 新計画に実効性を持たせる方策

##### (1) 農業者も計画策定などに参画してもらう

農業振興計画は、農業者の意見反映及び農業者の主体的取り組みに対して側面から関係機関・団体が支援しようとするという観点で、計画策定段階から農業者も参画してもらう。

##### (2) 計画の進行管理をする

計画に対する事業評価を毎年実施し、次年度の取り組みを協議する。

##### (3) 推進体制の強化（関係機関・団体の連携）

計画策定に農業者の参画とおなじく、進行管理にも農業者・関係機関・団体による組織（実務担当者会議の衣更え等）を設け、重要施策についてはプロジェクトチームによる取り組みなどの推進体制を強化する。

##### (4) アドバイザーの参画

具体的な取り組みなどについて、農業関係者以外に学識経験者をメンバーに加え事業実施をする。

##### (5) 実施主体の明確化（役割分担）

農業者、関係機関、団体及び消費者の役割分担を明確にし、事業実施の主体が誰であるかを明らかにする。

#### 5 その他

経済環境の悪化、輸入農産物の増加による価格の低迷、そしてBSEや食品表示の偽装事件など農業を取り巻く環境は益々悪くなっています。

こうした時代こそ「安全で安心できる」商品(農産物)づくりや市民に対する「石狩市農業・農村の理解」などの必要性を痛感したところであります。

また、「石狩市農業の持続的な発展」の方策については、農業者をはじめ市民との協働により新計画を策定するとの結論に達しました。

## 石狩市農業の現況

### 1 農家戸数の推移（専業・兼業別）

（単位：戸）

年次	総農家	専業農家	兼業農家			自給的農家
			総数	第1種	第2種	
平成3年	510	171	339	129	210	
平成4年	498	151	347	129	218	
平成5年	475	164	311	146	165	
平成6年	460	155	305	137	168	
平成7年	447	151 (140)	296 (254)	134 (134)	162 (120)	(53)
平成8年	459	150	309	128	181	
平成9年	448	141	307	125	182	
平成10年	404	160	244	113	131	
平成11年	400	168	232	105	127	
平成12年	391	130	214	119	95	47

（資料：「世界農林業センサス」・「北海道農業基本調査」）

平成12年度調査から、自給的農家を専業・兼業農家から除いている。  
平成7年度の（ ）は、参考として専業・兼業農家から自給的農家を除いた数字である。

### 2 農業就業人口（年齢別）

（単位：人）

区分	総計	男	女	15～29才	30～59才	60～64才	65才以上	市の人口
1980 (昭和55)	1,418	726	692	(16～29才) 189	958	(60才以上) 271		33,599
1985 (昭和60)	1,040	463	577	(16～29才) 108	629	118	185	41,642
1990 (平成2)	900	417	483	(16～29才) 80	506	102	212	47,339
1995 (平成7)	744	348	396	(15～29才) 32	376	109	227	52,209
2000 (平成12)	692	333	359	(15～29才) 50	287	88	267	55,480

（資料：「世界農林業センサス」・「石狩市統計書」）

### 3 経営耕地面積規模別農家数及び平均経営面積

年	農家数 A(戸)	例外規定	0.1～ 3.0ha	3.0～ 15.0ha	15ha以上	経営耕地面積 B(ha)	平均A / B (ha)
H7	447	4	155	267	21	2,855.61	6.39
H8	459	3	176	248	32	2,661.37	5.80
H9	448	-	171	244	33	2,678.84	5.98
H10	404	2	146	217	39	2,561.15	6.34
H11	400	1	143	216	40	2,575.44	6.44
H12	391	-	142	210	39	2,502.54	6.40

(「世界農林業センサス」・「北海道農業基本調査」)

### 4 経営耕地面積規模別農家数及び平均経営面積

#### (1) 農業粗生産額

区分	農業粗 生産額	耕 種									畜産
		米	麦類	雑穀・ 豆類	いも 類	野菜	花き	工芸農 作物	その他		
H8	(百万円) 3,405	(百万円) 3,105	(百万円) 1,107	(百万円) 176	(百万円) 66	(百万円) 218	(百万円) 1,200	(百万円) 325	(百万円) 7	(百万円) 6	(百万円) 300
H9	3,000	2,716	989	207	66	173	1,181	81	11	8	284
H10	3,200	2,917	1,014	265	94	197	1,226	99	14	8	283
H11	2,847	2,570	961	126	94	249	1,037	85	10	8	277
H12	(千万円) 272	(千万円) 245	(千万円) 94	(千万円) 13	(千万円) 8	(千万円) 26	(千万円) 94	(千万円) 8	(千万円) 1	(千万円) 1	(千万円) 27

(「北海道農林水産統計年報」)

#### (2) 農業所得(生産農業所得)

区分	生産農業 所得	生産性の指標		
		農家1戸当たり 生産農業所得	耕地10a当たり 生産農業所得	農業専従者換算1人 当たり生産農業所得
H8	(百万円) 1,600	(千円) 3,579	(千円) 49	(千円) 2,581
H9	1,366	3,056	42	2,203
H10	1,561	3,492	48	2,518
H11	1,361	3,045	42	2,195
H12	(千万円) 137	(千円) 3,496	(千円) 43	(千円) 2,450

(「北海道農林水産統計年報」)

## 石狩市農業振興計画の具体的な展開方向に関する評価

[ 推進の重点目標 ]

### 1. 推進体制の整備

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価(効果等)・新計画への必要性の説明
1. マネージメント体制の整備	B	A	平成12年に市、農業委員会、農協で構成する「石狩市農業総合支援センター」を設立し推進体制の整備が図られた。また、「営農検討会議」を立ち上げ担当者による事業の推進体制の整備を図った。 しかし、各施策を実施するための仕組みづくり(システム化)までには至っておらず、今後においても計画の実効性を図るための推進体制を充実することが必要である。

### 2. 担い手の育成・確保

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価(効果等)・新計画への必要性の説明
1. 営農意欲の回復 やる気の醸成	B	A	経営目標は、ほとんどの農家で行っているが、給料制の導入については少ない。 地域リーダーの育成は、移動大学村への派遣や道外研修に参加させた。 また、「いしかり女性アグリ21」を立ち上げたが、十分な活動が出来ていない状況である。 リーダーの育成、女性の参画による地位の向上に対する支援は、より積極的に推進すべきである。
2. 資質の向上	B	A	技術の研鑽は半数以上が行っており、普及センターや農協が個別指導や部会による研修を行っている。また、農業セミナー等の実施によりミニトマトの栽培を手がけるようになった。パソコンによる簿記講習会の開催により実践者が増えた。 アメリカ研修への助成など担い手対策への支援を行った。 教育や研修などの担い手対策に対する支援は、継続して行う必要がある。

注 [ 評価 ] A : 実施済みである B : 実施中である C : 未実施である  
[ 新計画への必要性 ] A : 新計画に必要 B : 検討を要する C : 新計画に必要ない

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
3．担い手の確保	B	A	子供に農業に対する理解と誇りを持たせる事をしている人は半数に満たない。 学童の農業体験（田植え、稲刈り）、市民対象のミステリーツアーを実施し農業・農村の理解を深めており、今後も継続的に実施すべきである。 花嫁相談窓口は、特に問題となっていないことから廃止する。
4．労働条件の改善	B	A	農休日を設定しているのは少ない。冬期間農作業が出来ない地域的条件がある。 水田自走式防除機を導入（助成）し、それを共同利用する事で労働条件が改善された。 グリーンサポーター事業の実施により、雇用労働の確保・調製体制の整備が図られた。 地域連携協定締結の必要性について再検討する。
5．新規就農の促進	B	A	新規就農者2名の就農は高岡地域であり、当該地域の農業者の受け入れは積極的である。 新規就農者2名、研修生2名の受け入れを行った。また、関係機関で構成する研修認定審査委員会、研修受入協議会を設置し受け入れ体制を整備した。 新規就農の受け入れについては、農地、住宅、資金、水の確保及び小面積（現状2ヘクタール以上）での就農などの課題である。 また、集団就農、定年就農、定年帰農及びアフターも視野に入れ検討する。

### 3．土地基盤の整備

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1．土地基盤の整備	B	A	堆肥の投入や輪作などの土づくりは、かなり実施しているが、有機農業の取り組みを積極的に推進する必要がある。 土壌診断に基づく施肥改善指導、土づくり研修会の開催及び試験圃場の指導等を行ってきたが「土壌マップ」の作成など総合的な推進体制を構築する必要がある。 一部の農家では畜産農家と連携し、堆肥を利用した土づくりを実施しているが、地域的取り組みに至っていない。また、稲わら、籾殻、野菜屑等の堆肥化事業の取り組みが必要

施 策 項 目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
2．基盤整備の推進	B	A	道営畑地帯総合土地改良事業（高岡地区）の完了、農道の整備、排水路事業の実施及び排水路・揚水機場・調整池（北生振地区）事業の着手など基盤整備を図っている。また、今後については、地域の要望等により検討する。 既存の老朽施設の改善は、付帯施設として環境に配慮した美観・親水施設も考慮した事業を検討する。 土地改良区の事業範囲を畑作地帯での事業実施が可能か検討する必要がある。

#### 4．経営の体質強化

施 策 項 目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明等
1．経営の安定化	B	A	経営改善のための簿記記帳等を半数以上が行っており、講習会等の指導によりパソコンによる経営管理を行う農家が増えた。また、女性が経営内容を把握するようにもなった。農協に「組合相談課」を設置し経営指導の充実を図った。また、経営指導は、営農計画策定時のみではなくその結果も分析し一貫した指導が必要である。 経営安定化の方策は、法人化、規模拡大だけとは限らないので、高収益作目の作付け、集団化及び団地化の指導などを継続的に行うことが重要である。
2．経営の複合化	B	A	経営の複合化は、約半数が行っており「ミニトマト100棟構想」に基づく市の助成によりミニトマトの生産農家が増えている。 試験ハウスの設置に対して助成し、ミニトマト、ほうれん草、そら豆等の新規作物試験を行い、高収益作物の導入に取り組んでいる。 経営の複合化は、今後とも推進する必要がある。
3．農地の利用集積	B	A	規模拡大等の話し合いは地域単位では少ない。 所有権や利用権、作業受委託等は、農協などが個別に斡旋を行っているが、今後は、土地情報システムを活用した「賃借台帳」を作成し、関係機関・団体が連携し情報の一元化を図るなどシステム化を早急に行う。



## 5. コストの低減

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1. 技術の向上	B	A	先進技術の導入等は半数以上が行っており、普及センター、農協の指導のほか「専門技術員」を配置し指導体制の充実を図っている。 施設野菜の取り組みは、まだ始ったばかりであり技術指導や施設の助成は継続する必要がある。
2. システム化等による経費の節減	B	A	減農薬・減施肥はほとんどが実施している。また、機械の共同利用による費用の節減や、共同作業、作業受委託集団化などの労働費の節減は、半数以上が取り組んでいる。しかし、低コスト化の方策は、地域単位・組織単位の取り組みが必要であるので、今以上の努力が必要である。 水稻の防除機、人参の収穫機の購入に対する助成を行っているが、作業受委託等などのシステム化に対しては、関係機関・団体の支援が必要である。
3. 流通コストの節減	B	A	流通コストの節減、生産・出荷の適正化に努めているが、低価格競争の中では一層の努力が必要である。 札幌市場や道外市場との契約等の努力はしているが、今後も継続しなければならない。現在3ヶ所ある選果場の統合について検討中である。 地元の農産物の販売は、農業祭りなどで行っているが、年間通しての供給・販売体制を図るなど地産地消のシステム化を構築する必要がある。

69

## 6. 付加価値の向上

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1. 品質の向上	B	A	良質な農産物栽培に取り組んでいるが、水田の生産調整で作付けしている小麦や大豆については、品質向上に一層の努力が必要である。また、転作作物の格差是正も含めて検討すべきである。

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
			米の食味を上げるため土壌分析による低タンパク指導をしている。また、その他の作物についても、作物毎の目標数値を設定し指導する必要がある。 真空予冷庫の導入は、選果場の統合、利用計画、財源も含めて検討中である。 米の初期成長に影響が出るので防風対策を検討する。 連作障害に対する指導や施設設置の支援は継続する必要がある。
2．クリーン農業への取り組み	C	A	「有機・減農薬」の取り組みは、殆どが行っている。しかし、イエス！クリーン（北海道）の認証を受けるまでには至っていないので、計画での位置づけが必要である。 有機農業に対する農業者の意識は高いが、栽培方法について解らないので栽培方法のガイドラインを策定し、イエス！クリーンの取り組みを推進する必要がある。
3．農産加工等の促進	B	A	手づくり加工の取り組みはグループ毎で行っているが、製品化や地域的な取り組みまでに至っていないので、より積極的に推進する必要がある。 新港地域のホクレンとの契約による芋・人参の納入、地元の農産物を使用した「ラーメン」、地酒「いしかり」及び「豆腐」など加工業者とのによる商品化の努力はしている。 また、新港地域の企業や商業者との連携による石狩版産業クラスターの立ち上げを検討する必要がある。

## 7．販路の拡大

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1．ブランドづくり	B	A	「ほしの夢」の作付けなど産地銘柄の確立に努力している。 また、石狩産米「加夢加夢」、地酒「いしかり」、「海風丸ラーメン」などのブランド化にも取り組んだが認知度が低いので、農業関係者及び他の経済団体等との連携により積極的に推進すべきである。 大根、人参、サヤエンドウは、市場において認知されているが、連作障害、価格の低迷、生産者の高齢化などで生産が減少しているので対策が必要である。

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
			アスパラ、ミニトマト、ほうれん草などをブランド化するための取り組みをする。ブランド品等のPR方法を再構築すべきである。
2. 流通ルートの開拓	B	A	販路拡大のための生産・出荷体制の取り組みや、直接販売の努力をしているが、地産地消も含めて推進すべきである。 道外市場である東京、大阪、名古屋などの市場開拓を行った。今後もデパート、地場スーパー、新港地域の企業等との連携により積極的に推進する必要がある。 「地産地消」は、直売所の設置やスーパーとの連携による「朝もぎサイトコーン」などの努力をしているが、地元の商工業者や消費者も含めた仕組み作りが必要である。 アンテナショップや地場製品のPRなどの経費に対する支援について検討すべきである。 物産館については、厳しい財政状況なので再検討する必要がある。

## 8. 活力と魅力ある農村づくり

施策項目	評価	新計画への必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1. 農村環境整備と生活文化の充実	B	A	花いっぱい運動、花壇作り、花壇コンクールへの支援を行った結果、取り組みはある程度定着してきたので、支援について検討すべきである。 上水道については、高岡地区が近く整備されるが、福祉的サービス機能の整備などは、財政的な部分もあるので検討が必要である。 北生振地区の防風対策を検討する必要がある。（道路などの公共施設での植林）
2. 就業の場の拡大	B	A	観光農園、ハウス栽培、手づくり加工食品の取り組みは一部で行っているが、雇用の拡大や通年雇用までには至っていないので推進する必要がある。 通年使用のハウスによる施設園芸は、加温のコストや市場価格の問題などで実施には至っていないが、堆肥によるバイオガス、ソーラーの利用など検討すべきである。

施 策 項 目	評価	新計画への 必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
3．都市との交流	B	A	消費者との交流や消費者団体と地域ぐるみでの交流など、農業・農村の理解に努めてはいるが全体としては少ない。 農業祭り、ミステリーバスツアー、学童の農業体験、シンポジウムの開催などを実施しているが、今後は市民農園の実施など新たな事業展開が必要である。
4．グリーンツーリズム構想の実現	C	B	景観づくり、観光農園は、一部での取り組みであるが、今後増えることが予想される。 グリーンツーリズム実施に向けた取り組みは、農産物の生産、価格の低迷、後継者問題など課題が多く、都市住民に対して事業を実施する余裕がない状況である。しかし、今後検討しなければならない課題である。

#### 9．農業支援システムの構築

施 策 項 目	評価	新計画への 必要性	事業評価（効果等）・新計画への必要性の説明
1．農業総合支援システム設置事業	A	C	農業支援システム構築のために平成12年「石狩市農業総合支援センター」を設置し、グリーンサポート事業や新規就農者の受入体制の整備などの事業を実施した。 また、農地の流動化、農作業受委託のシステム化やクリーン農業、生産法人の設立への支援などにも取り組んでいる。 支援センターの事業は、関係機関・団体が行うべきものもあり、役割分担を明確にする必要がある。 支援センターの法人化（必要性について）は、検討する必要がある。

注 [ 評 価 ] A：実施済みである B：実施中である C：未実施である  
 [ 新計画への必要性 ] A：新計画に必要 B：検討を要する C：新計画に必要ない